

第Ⅲ章 合意形成や情報発信に向けた取組

第Ⅲ章 合意形成や情報発信に向けた取組

1. 合意形成や情報発信に向けたイベントの開催

本節では、合意形成や情報発信に向けて今年度実施したイベントの開催目的及び総括について整理した。各イベントについては、次節2及び次々節3で詳述する。

(1) イベントの開催目的

これまで、地権者や県民・市民を主な対象として、県民フォーラムやPRキャラバン、ワークショップ等による合意形成・情報発信についての取組を行ってきた。しかし、その対象者は、跡地利用を含めたまちづくりに対する関心が高い人々が主となっており、その他の県民・市民や若年層への情報発信が不足していたと考えられる。

今年度実施したイベントでは、若い世代やこれまで以上に幅広い層への情報発信を目的に、跡地利用計画を広く周知するイベントを2つ開催した。

イベント1においては、宜野湾市民、特に将来の跡地利用の担い手となる「若い世代（特に子どもたち）」をターゲットとし、小中学校の夏休み期間に宜野湾市民図書館での体験型の展示イベントを開催した。

イベント2においては、これまで跡地利用計画に関する情報に触れる機会の少なかった県民・市民をターゲットとし、県内最大級の住宅展示会「沖縄県トータルリビングショウ」への出展を行った。

また、両イベントでは、来場者に対してアンケート調査を実施し、広く県民・市民の意見聴取を行った。

(2) イベント全体の総括

今回のイベントを通して、普天間飛行場の規模や歴史について、よく知らない県民・市民が多くいる印象を受けた。今回と同様のイベント（これまで蓄積してきたVR、PV等のコンテンツを活用）を、さらに幅広い県民・市民へ情報を発信するとともに、気運醸成を図る必要があると考える。

コンテンツとしては、来場者自らが操作しながら「未来のまち」を映像で具体的な跡地利用イメージを感じることでできる「イメージCGまちあるき体験コーナー」が、特に子どもたちに好評であり、イベント2においては、それが親子同伴での来場につながったものと思われる。

今後は、イベント1でターゲットとした小中学生以外の若い世代への層の拡大等、別のターゲットの設定や、県民・市民が多く集まるイベント等への参加・出展等、イベントの開催場所や開催時期についても戦略的に検討する必要がある。また、イベント等が、単発的な開催になってしまわないよう、イベントが開催されていない時期についても、既存のホームページ以外で継続的な「普天間未来予想図」の情報発信を行う機会を設けることも今後検討する必要があるものと考えている。

2. 跡地利用計画についてのイベント（その１）

本節では、イベント（その１）の目的、概要及び結果概要について整理した。

（１）イベントの企画 実施目的

宜野湾市民、特に将来の跡地利用の担い手となる「若い世代（特に子どもたち）」が跡地利用に関心を持ち、未来を想像して自由な発想や提案をする機会をつくることを目的とした。

具体的には、これまでに制作してきたVR、PV等のコンテンツを活用した体験展示の内容で構成し、若い世代の積極的な参加を促した。また、開催時期は夏休み期間中とし、自由研究の課題や家族友人との話題になるよう設定した。

（２）開催概要

（２）－１ 開催概要

開催日時及び場所は、以下のとおりである。

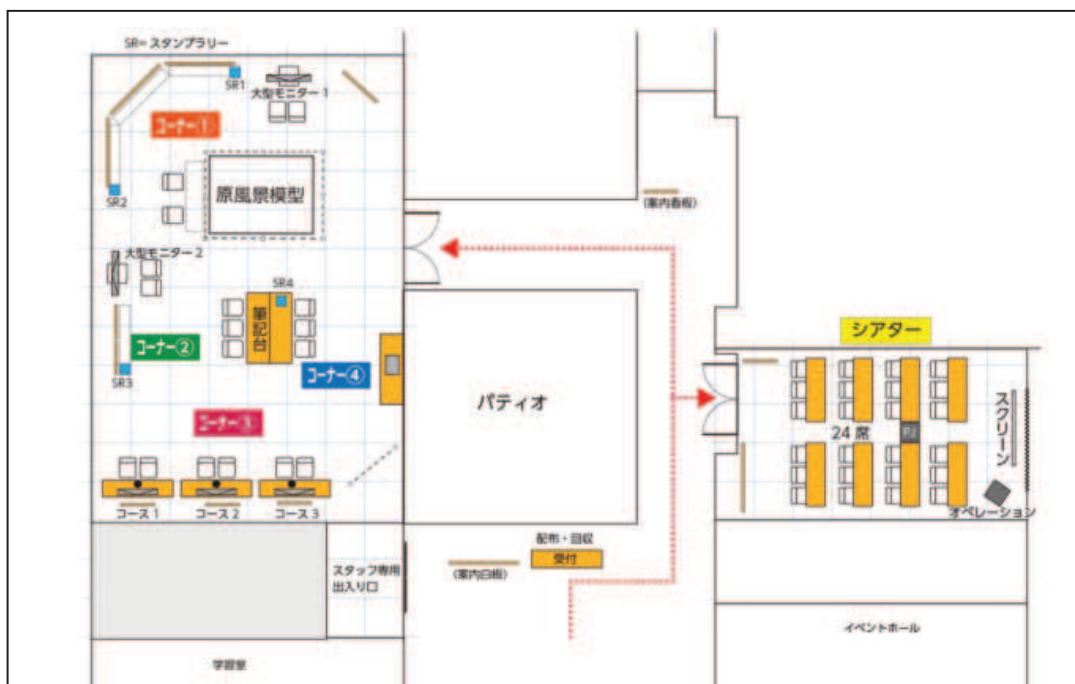
【開催日時】平成30年8月12日（日）～19日（日）※14日休館 ＜7日間＞

10：00～19：00 ※13日（月）のみ17：00終了

【開催場所】宜野湾市民図書館 2階カルチャーホール及び会議室

（２）－２ 展示内容

イベントの展示は、以下に示す配置とし、各コーナーのテーマ及び展示内容は次ページに示すとおりである。



図Ⅲ－１ イベント（その１）会場全体図

コーナー 1 テーマ：普天間飛行場、その地の魅力

- 現在の普天間飛行場は、かつて、人々が暮らし、営んでいた。その当時の集落の様子を展示。
- 地形による風の流れや、緑の配置、下水の流れをうまく使った集落の様子を伝える原風景模型（解説パネル含む）を展示。
- 展示項目：原風景模型/映像（過去のP Vから）／パネル 7枚

コーナー 2 テーマ：普天間飛行場がまちになったら

- 普天間飛行場がまちになったら、みんなの暮らしがどのように変わるかの問いかけ。
- 経済効果や人口増加などのデータ、「緑の中のまち」にすることでの環境づくりなど、未来の生活がどのように変わるのかを感じていただく展示。
- 展示項目：映像（過去のP Vから）／パネル 2枚

コーナー 3 テーマ：未来のまちを歩いてみよう

- 普天間未来予想図で描く未来のまちの様子を、イメージCG（VR=仮想現実）として制作。
- 「未来のまち」のアニメーション映像で、子どもたちが歩くように体験。それぞれ特徴をもった3つのコースで、クイズの答えを探しながら、コントローラーを使って、まちを巡る。
- 展示項目：操作可能なCG映像 3種

コーナー 4 テーマ：未来のまちに望むことは

- シアター映像と展示・体験をして、感じたことなどをアンケート調査。（詳細はアンケート報告参照）
- スタンプラリー（4か所）：展示室において、小学生向けに楽しみながら会場を回れるよう開催。また、アンケートの回収増につなげるためスタンプ用紙はアンケートを兼ねた。

コーナー（会議室） テーマ：未来のまちシアター

- イメージCG（VR=仮想現実）を見ながら、「未来のまち」の魅力のポイントを伝えるシアター。子どもたちがどんなところに興味をもち、何を期待するのか。子どもたちの感覚を、跡地利用計画の参考にすることも兼ねたプログラム。

(2) - 3 周知方法

(2) - 3 - 1 チラシ・ポスター

宜野湾市内の小中学生を中心に市民に関心を持ってもらうため、市内全小中学校 13 校にチラシを送付し、夏休みの自由研究の題材として活用していただくよう、校内での周知を依頼した。また、市内の児童センターや公共施設など計 17 か所と市内 23 の自治会には、チラシとポスターを直接持ち込み、市民や各自治会の町内の方への周知を依頼した。

①告知チラシ (A4版 両面)



②告知ポスター (B2版/A3版 片面)



(2) - 3 - 2 パブリシティ（ニュースリリース）

地元ミニコミ誌のイベント・催事の紹介ページにリリースし、県民・市民への周知を図った。

①**レキオ**（琉球新報発行タブロイド版フリーペーパー 毎週木曜日発行県内全域）

8月9日掲載 あまくま情報局面

②**週刊ホームプラザ**（沖縄タイムスとセット配布 女性向けタブロイド版

フリーペーパー 毎週木曜日発行 県内全域）

8月9日掲載 インフォメーション面

(2) - 3 - 3 県内主要紙やラジオによる周知

新聞掲載、ラジオ放映、ホームページへの掲載により、県民・市民への周知を図った。

①**沖縄タイムス**（県内全域）

8月12日掲載

②**琉球新報**（県内全域）

8月19日掲載 文化面

③**ラジオ県民室**

8月8日 琉球放送 11:55 - 12:00

8月14日 ラジオ沖縄 11:50 - 11:55

8月14日 エフエム沖縄 12:55 - 13:00

④**沖縄県及び宜野湾市のホームページ内での掲載**

7月下旬～8月中旬

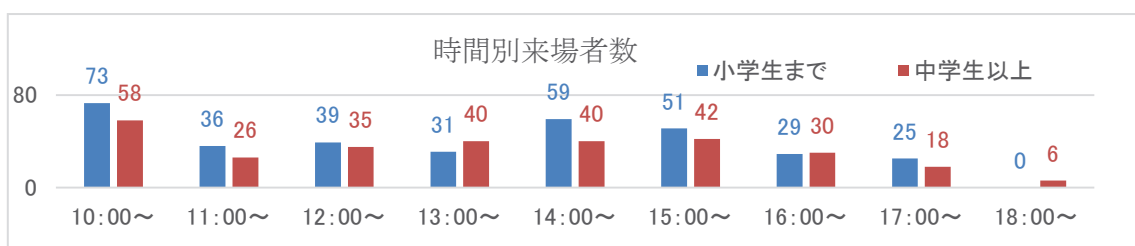
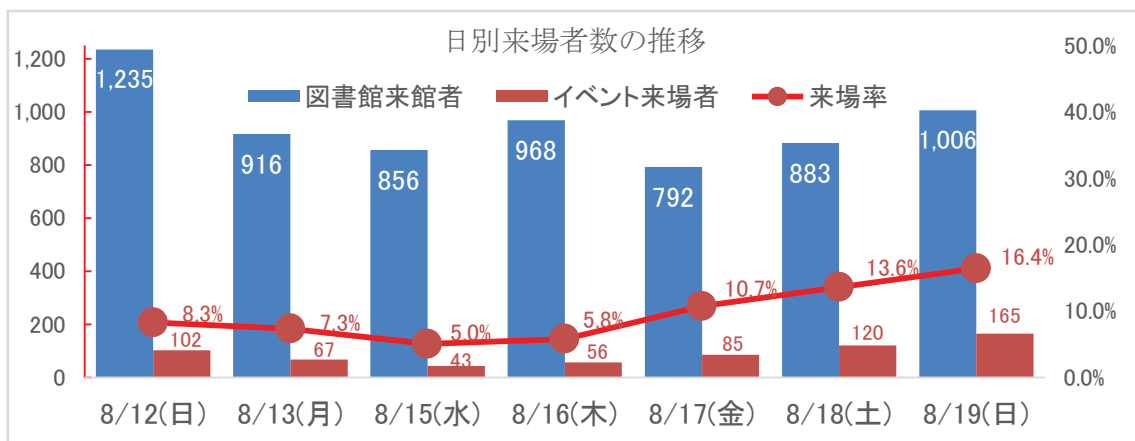
(3) 開催報告

(3) - 1 来場者数および実施の様子

- ・今回は、平日の天候の不安定の影響からか、来場者数が伸び悩んだと思われる。
夏休み期間中だったが、来場が土日に集中した。その影響からか、土日は保護者と同
伴の幼児・低学年が多かった。
- ・来場時間帯は、午前中から16時くらいまでで、それ以降は少なかった。
- ・今後の開催日程の検討にあたっては、不特定多数のファミリー層を対象とする場合は
土日祝日（時間帯は午前中から16時まで）としたほうがよいと思われる。

表Ⅲ-1 イベント（その1）日別・時間帯来場者数

日程	8/12(日)	8/13(月)	8/15(水)	8/16(木)	8/17(金)	8/18(土)	8/19(日)	合計
天気	曇り時々晴れ	雨のち曇り	雨(台風)	雨	晴れ	晴れ	晴れ	
備考	・オープニングセレモニー	・内閣府視察 17時まで	・AM高校野球興南戦					
	子供 大人 計	子供 大人 計	子供 大人 計	子供 大人 計	子供 大人 計	子供 大人 計	子供 大人 計	子供 大人 計
10:00～	24 15 39	12 6 18	3 5 8	4 5 9	1 7 8	21 8 29	8 12 20	73 58 131
11:00～	3 5 8	5 2 7	0 2 2	1 1 2	8 3 11	8 7 15	11 6 17	36 26 62
12:00～	9 6 15	9 6 15	2 1 3	2 1 3	7 9 16	5 5 10	5 7 12	39 35 74
13:00～	3 3 6	2 1 3	2 4 6	4 12 16	1 2 3	13 8 21	6 10 16	31 40 71
14:00～	1 5 6	4 2 6	3 4 7	1 1 2	22 8 30	9 5 14	19 15 34	59 40 99
15:00～	5 5 10	11 7 18	3 2 5	13 8 21	3 1 4	4 6 10	12 13 25	51 42 93
16:00～	6 6 12	0 0 0	3 4 7	2 1 3	2 2 4	7 11 18	9 6 15	29 30 59
17:00～	0 1 1		2 2 4	0 0 0	5 4 9	1 2 3	17 9 26	25 18 43
18:00～	0 5 5		0 1 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 6 6
合計	51 51 102	43 24 67	18 25 43	27 29 56	49 36 85	68 52 120	87 78 165	343 295 638
図書館来館者 (入場口計測延数)	1,235	916	856	968	792	883	1,006	6,656
イベント来場者 図書館来館者	8.30%	7.30%	5.00%	5.80%	10.70%	13.60%	16.40%	9.60%



①平成 30 年 8 月 12 日 オープニングセレモニー



②展示室での体験風景

コーナー1



コーナー2



コーナー3



コーナー4



③シアターでの様子



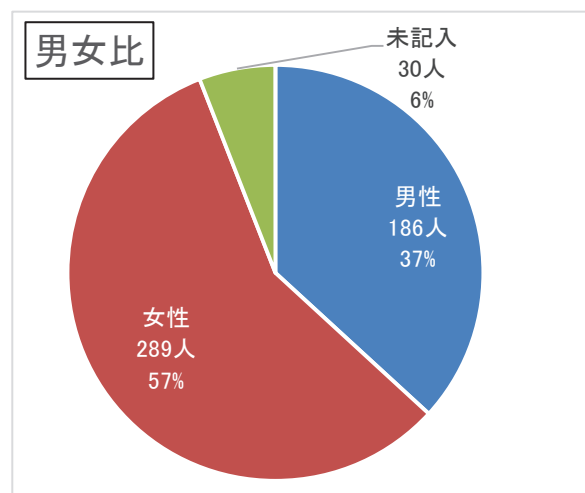
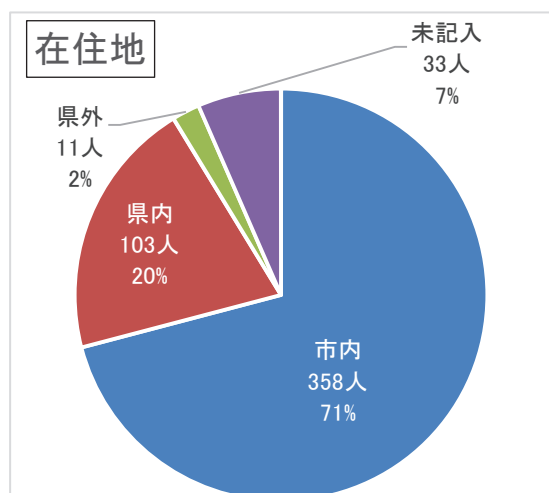
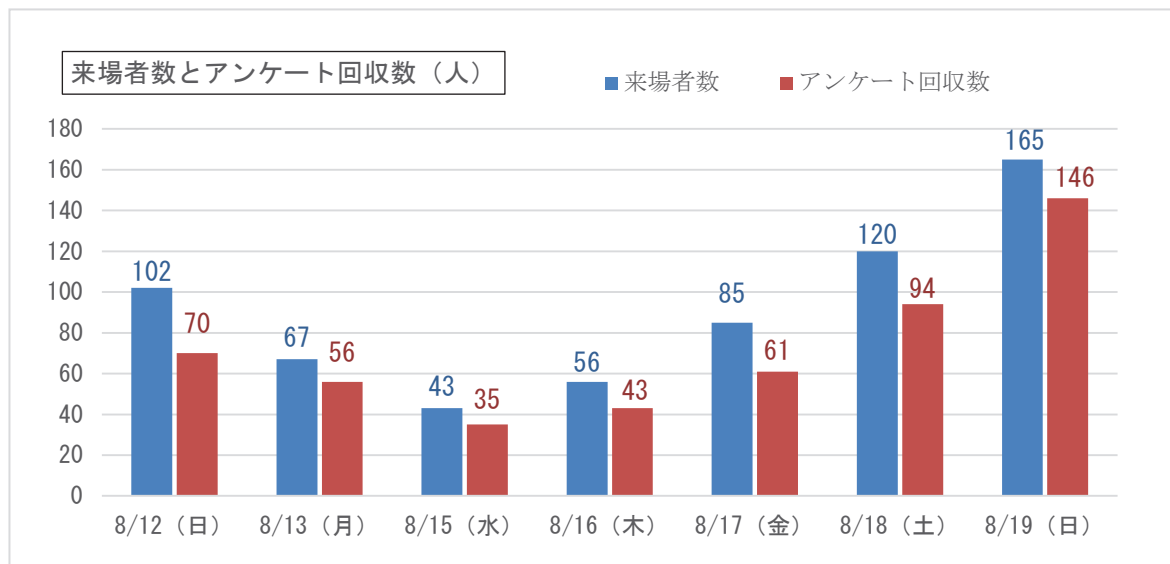
(3) - 2 アンケート結果

- ・来場者のアンケート記入率は、平均で78%と高かった。
- ・図書館利用者のうち、イベント会場への来場者は積極的かつ熱心に学習する姿が見受けられ、学習意欲が高いと感じた。
- ・子どもが母親と同伴で来場するケースが多く、女性の割合が6割弱と高くなった。

アンケートの取得方法は、まず受付にてアンケート用紙を配布した(来場者全員)。次にシアターで鑑賞後、または、展示会場での体験後に記入していただき、退場時に受付にて回収し、その特典としてクリアファイルを贈呈した。

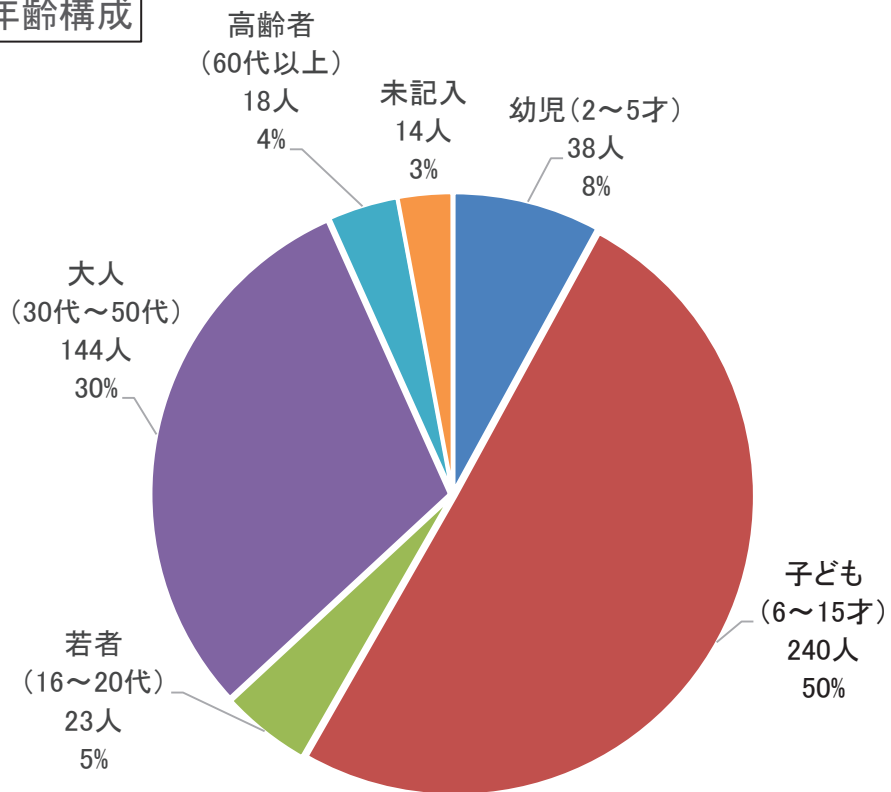
表Ⅲ-2 イベント(その1)アンケート回収状況

アンケート		来場者数	アンケート回収数	回収率
8月12日	日	102	70	69%
8月13日	月	67	56	84%
8月15日	水	43	35	81%
8月16日	木	56	43	77%
8月17日	金	85	61	72%
8月18日	土	120	94	78%
8月19日	日	165	146	88%
合計・回収率平均		638	505	78%



- ・ 幼児または低学年層の親子連れの参加が多く見られ、夏休みの宿題の参考になることをアピールできたと思われる。（子どもは低学年で親世代は、30代～40代）
- ・ 図書館2階の学習室の利用者（主に小学生）の来場もあった。（イベント会場と同フロア）
- ・ 当初目的とした対象のひとつである中学生については、うまく集客できなかったと感じている。

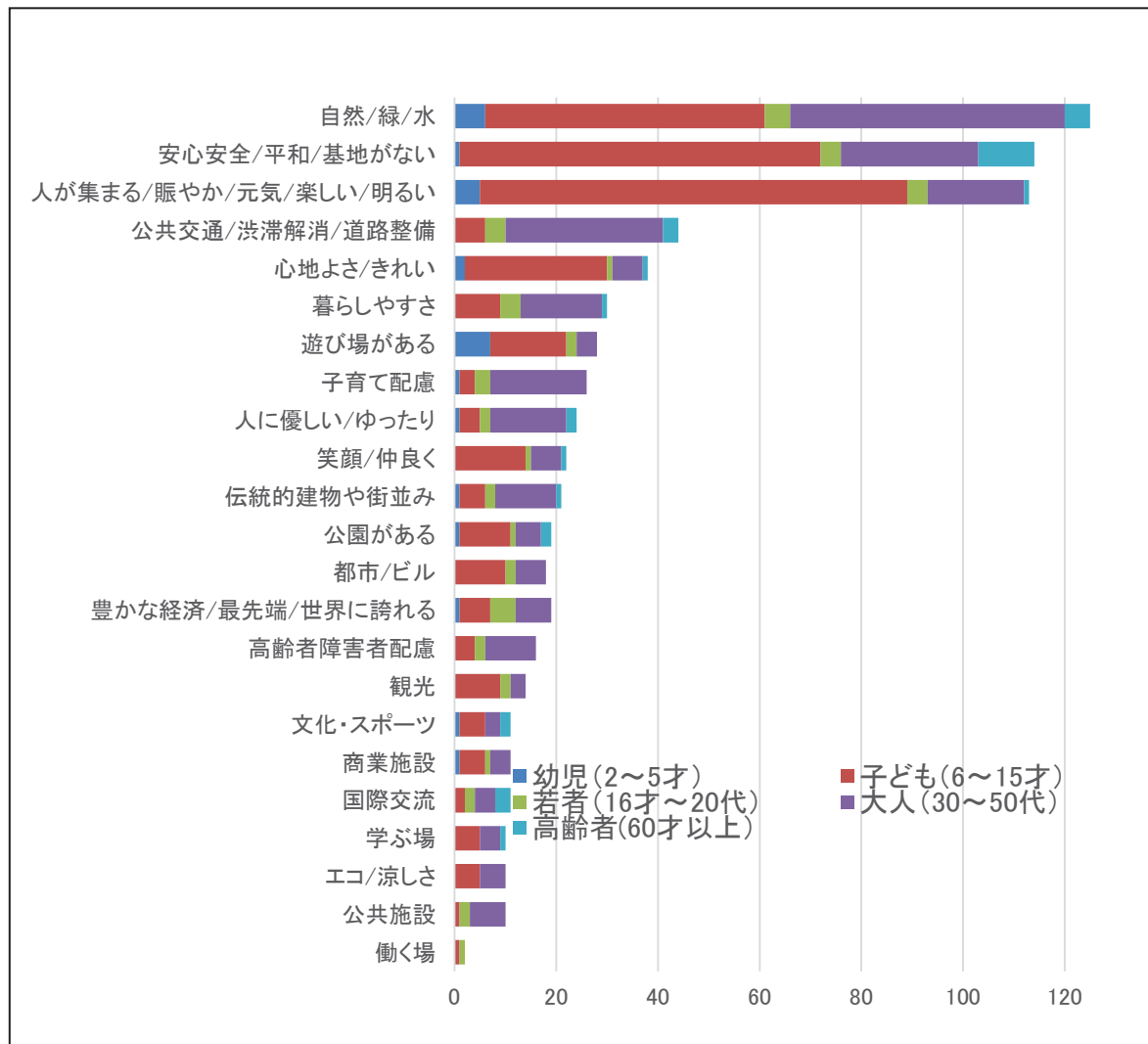
年齢構成



設問 1

未来のまちはどんなまちになったらいいと思いますか？

- ・緑の多さを挙げる人が圧倒的に多かった。シアター映像視聴、VR体験、パネル展示、PV視聴が影響を与えたことも考えられる。
- ・低年齢層のアンケートが3分の1を占めている。
概ね「緑」「平和」「楽しい」「安心安全」など、明るい未来志向の意見が多かった。
- ・原風景模型などで昔の生活の様子を知ったことでの驚きや、かつての風景の保存についての興味関心は、各年齢層ともに高かった。
- ・「安心・安全」においては、“子どもが遊べる、散歩ができる”など子どもに関連した併記が多かった。



【集計方法】: キーワードを抽出し集計
 ①自由記述からキーワードを複数抽出
 ②類似するキーワードはひとつにまとめた

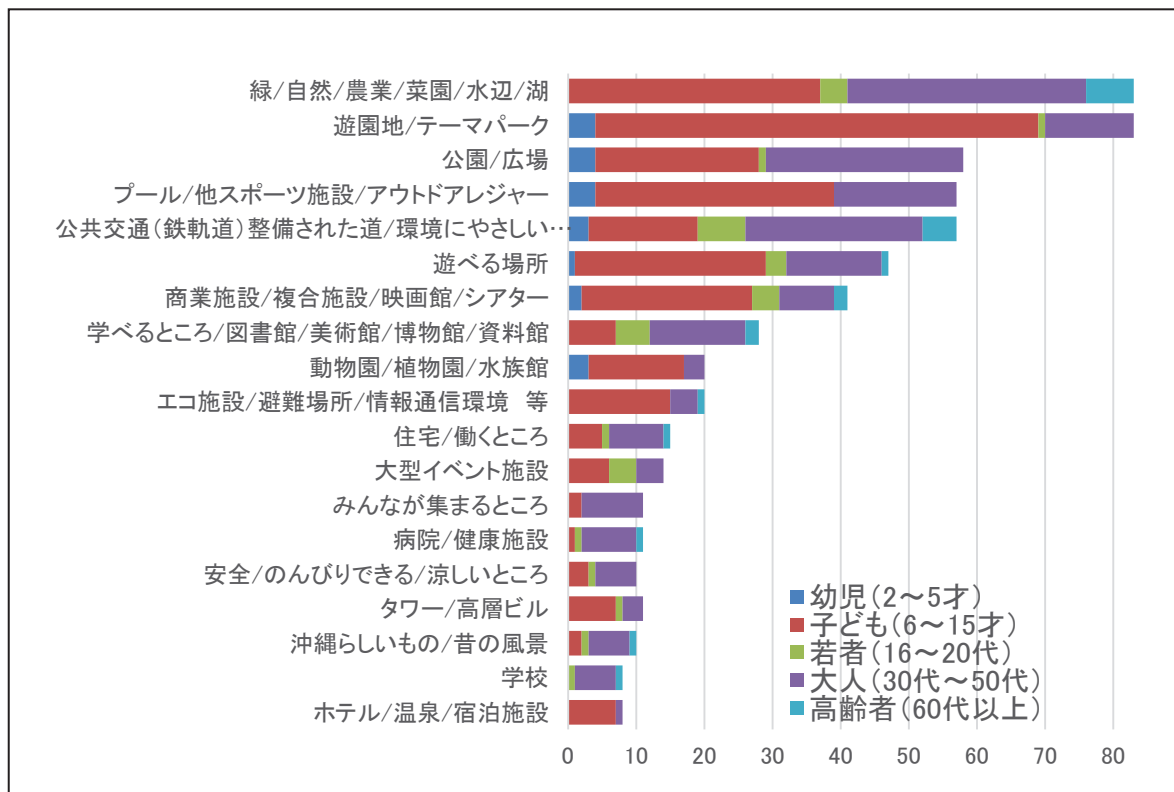
設問 2

未来のまちには何がほしいですか？

- ・土や水など、「緑」、「自然」に関するもの、またそれに付随する「動植物・昆虫」などの意見が、幼児・子どもたちから多かった。
- ・「ディズニーランド」、「ユニバーサルスタジオジャパン」など、具体的なテーマパークを明記した子どもが多かった。
- ・「大きなプール」、「ドーム（イベント会場・野球場）」、「大きな公園」など、広いところで思いっきり遊びたいとの併記が多かった。
- ・大人は、「公共交通・整備された道」など、移動に関する対策を挙げているが、子どもたちは、乗り物として「空飛ぶ車」、「電気自動車」、「ロボット」を挙げている。これらの意見は、日常の環境（渋滞に対する意識の表現を想定）改善を求めているものと思われる。

〈その他特記すべき回答〉

- ・物より若者のチャレンジを応援する土壌（精神性も含め）がほしい。
- ・何かモニュメント（象徴）となるものがほしい。
- ・親子で一緒に楽しめるところがほしい。



【集計方法】: キーワードを抽出し集計
 ①自由記述からキーワードを複数抽出
 ②類似するキーワードはひとつにまとめた

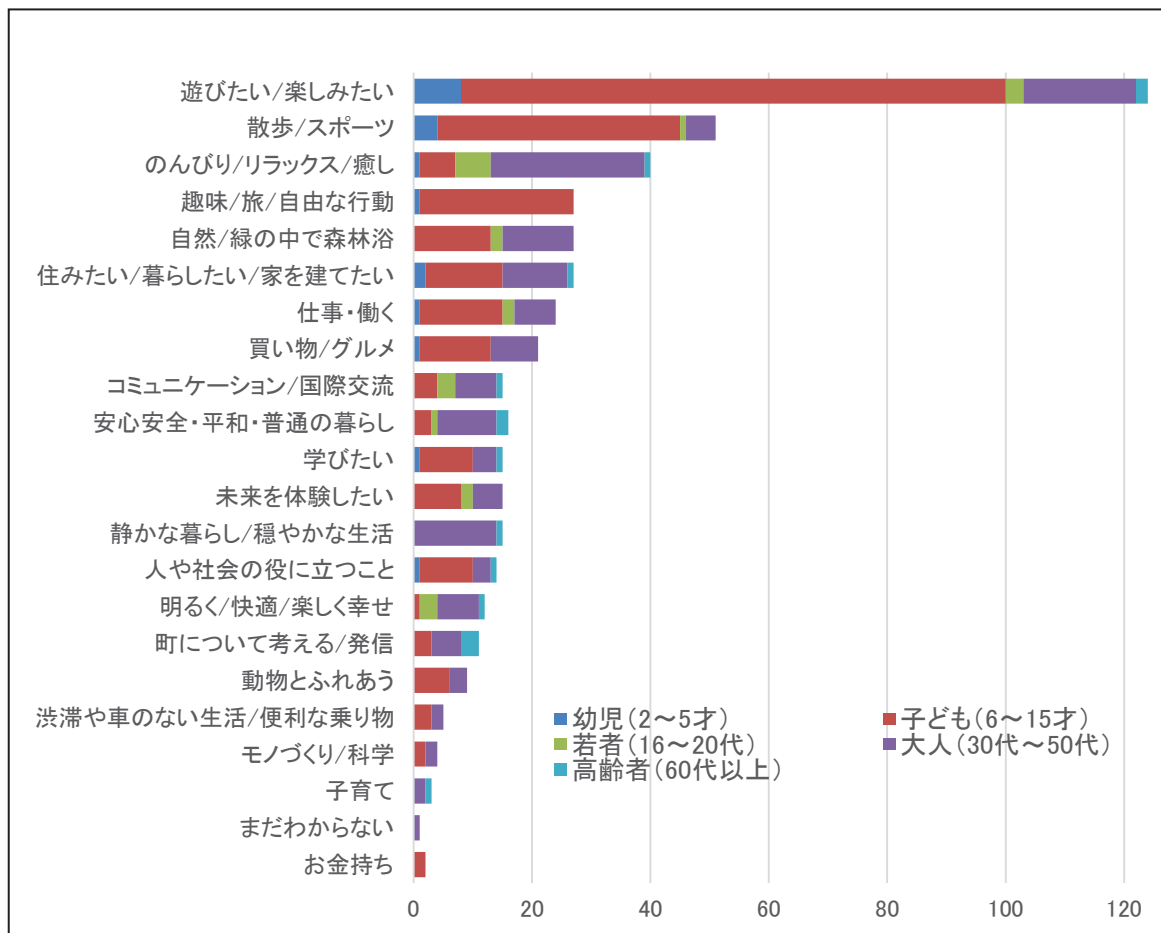
設問3

未来のまちで何をしたいですか？

- ・「遊びたい」、「楽しみたい」が最も多かったのは、他のキーワードとの併記が多かったためと思われる。
- ・「遊ぶ」の併記としては、スポーツや遊園地、公園や自然、家族や友だちと一緒に多かった。
- ・「楽しみたい」の併記としては、「遊ぶ」と同意であるとともに「買い物」や「のんびり・ゆったり」も含まれていた。
- ・年齢問わず、「住みたい」、「未来のまちに住みたい」などの意見も寄せられた。

〈その他特記すべき回答〉

- ・「ものづくり」のまちなど、特徴のあるまちになってほしい。
- ・働いている人も、家族や大切な人と過ごす時間を多く持てる環境となってほしい。



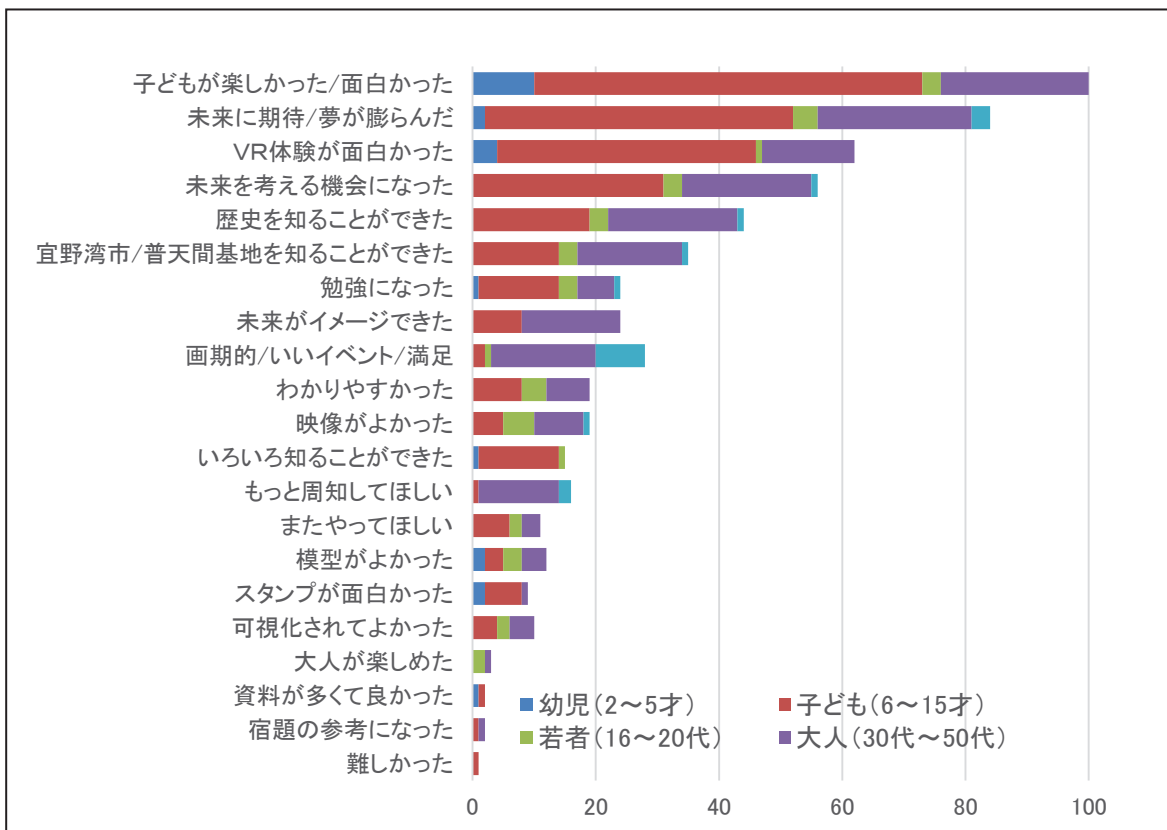
【集計方法】: キーワードを抽出し集計
 ①自由記述からキーワードを複数抽出
 ②類似するキーワードはひとつにまとめた

イベントの感想

- ・参加した人から好評を得られ、満足度も高かった。
- ・この場所の歴史について、“初めて知った”、“驚いた”、“知って良かった”などの意見が多かった。
- ・年齢問わず、未来のまちへの「夢・期待」が高かった。
- ・他の人にも広めて欲しい（周知方法など含め）、イベントの継続への期待が多かった。
- ・VR/模型、映像による視覚化、わかりやすさ、体験による伝達は、好評でかつ有効的であったものと思われる。

〈その他特記すべき回答〉

- ・1つのイメージだけではなく、たくさんのイメージを募集して、みんなでどんなまちがいいか考えられる場所があったらよい。
- ・都市開発のコンセプトや全体イメージがあまり分からなかった。
- ・跡地の利用は、だれがきめるのか？ どのような基準で跡地につくったほうがいいものを選ぶのか？ が知りたかった。
- ・返還後のまちづくりについて、過去の様子や自然資源を生かしていこうという考えが分かって良かった。



【集計方法】:キーワードを抽出し集計

①自由記述からキーワードを複数抽出 ②類似するキーワードはひとつにまとめた

アンケート用紙

【アンケート用紙】自由記述方式(スタンプラリー台紙)を兼ねる)

◇ 未来のまちについて考えよう!! ◇

1から3の中から1つえらんで考えてみてね。

- 未来のまちはどんなまちになったらいいと思いますか？
- 未来のまちには何があるといいと思いますか？
- 未来のまちで何がしたいですか？

あなたのことについてお聞かせください。

性別 男 / 女 年齢 () 才 住んでいるところ 市内 / 県内 / 県外

イベントの感想

過去と未来を体験しながら ^{たいげん}スタンプ をあつめよう!

--	--	--	--

（３）－３ シアター映像を見た感想

シアター会場で記入していただいた意見（フリーアンサー）をカテゴリー別に以下のとおりまとめた。

①飛行場移転について

- ・移設されるのに時間がかかるので、それまでにもっと色々考えて、みんなが楽しい町にできたらいいと思った。
- ・現実には連日連夜離陸時の爆音が苦しいです。それに対して何もできず…夢見ることを忘れている。
- ・ヘリの音で夜うるさくなくなれば、それでいい。
- ・私有地を取り戻せた人が、しっかりとプライベートを保てる環境があってほしい。
- ・普天間飛行場がなくなって、暮らしや学びの中心になったら本当にすてき。
- ・新たな雇用の創出や沖縄の活性化が実現できるよう願っている。
- ・まず、普天間飛行場があるととても不安だが、それがなくなるだけでとても平和になり、みんなが安心するとおもう。
- ・飛行場がなくなる日をはやく実現させてほしい。

②まちづくりについて

- ・とてもすごい未来の町です。世界中の人々も来て欲しい。
- ・公園や生活する人が便利な施設が沢山あるのがいい。
- ・伝統と多様性の基で、イノベーションをおこす「まちまーい」を作ってほしい。
- ・未来の町を見てみて、とても楽しそうだなあと思った。行きたいなあと思った場所はいっぱいあったけど、その中でも、キレイな水の公園に行きたいと思った。
- ・素晴らしい！しかし、絵に描いた餅にならない様に！計画は緻密に。
- ・もうちょっと家が多くて、お店や働く場所がほしい。

③暮らし方について

- ・赤ちゃんから高齢者まで、幅広い方達が楽しく、安心して過ごせるまちになるといい。
- ・子どもたちみんなが楽しく安全に遊べる場所。
- ・子育てにも優しい環境を！
- ・ゴミもなく、人もたくさんいていい町。
- ・沖縄に観光客が増えるし、自分も行ってみたい。
- ・自然、未来、歴史文化が共存し「未来の子ども」たちに沢山の刺激を与えてくれそう。
- ・安全で住みやすいところになってほしい。
- ・自然が身近にあって静かに暮らせる町（昔ながらの平屋がいいな）。
- ・未来のまちは、子どもからお年寄りまで、全ての人々が幸せに暮らせる場所であって欲しい。

④歴史について

- ・琉球の歴史と異文化を知ることができる場所として発展していくと面白いと思う。
- ・歴史もしっかり残しつつ、緑の多い暮らしやすい未来になってほしい。
- ・普天間飛行場についての資料館のようなものは、残して欲しい。なくなるのは嬉しいけど、そこに至るまでの歴史が知れたらいい。
- ・沖縄の文化をみんながわかるようにするのはいい。
- ・平和記念資料館もあって、これまでの現状を残し伝えられればいい。

⑤緑のまちについて

- ・地元の人も集まれる、緑豊かな場所になってほしい。
- ・自然が豊かで平和になってほしい。
- ・緑や水を生かしたまちは、ステキだと思う。
- ・緑がたくさんあって、とても住みやすそう。
- ・緑が多くて、過ごしやすそう。
- ・ビルなどがたくさん建っても、緑を残していった方がいいと思う。
- ・とにかく緑がいっぱいあって素晴らしい！本当にこのようになるといい。

⑥エコについて

- ・建物が沢山できるのはいいが、地球温暖化のことも考えた、エコな町づくりができるといい。
- ・未来への希望がわくC Gでした。安心安全でクリーンエネルギーを使ったまち！
- ・太陽光発電、充電。 雨水を活用。

⑦交通について

- ・自転車道の整備等、きちんとして欲しい。
- ・モノレールなどできるだけ車を使用しなくても移動できる手段があるといい。
- ・街の中に路面電車があったらいい。
- ・松並木の長いメインストリート。路面電車が主な交通になったらいい。

⑧まちの機能について

- ・ピクニック、いろんなスポーツができること。
- ・遊園地がある楽しい所。
- ・世界中から人々が集まる町なので、その国の文化や行事などを体験できる施設ができるといい。
- ・もうちょっと家が多くて、お店や働く場所がほしい。
- ・水遊びがたくさんできるところができたらいい。
- ・青空マーケットがあるのがいい。
- ・桜がキレイ、学ぶ場所もあっていいなあ。
- ・何かあったときに、大きな建物の避難場所。

- ・自然が沢山の公園 大きな映画館 遊園地。
- ・桜並木がすごくよかった。もしできたら是非お花見に行きたい。
- ・ホテルから沖縄のキレイな海がみえるのはポイント高い！
- ・商業施設など市としても税収を得られる施設が必要。
- ・公民館や地域の人々が交流できるような場所もあるとよい
- ・農業（畑・ハウスなど）の姿があった方がいい、土で生産する姿。消費に偏らないでほしい。

（４）まとめと今後の課題

（４）－１ 来場者の反応

- ・歴史（昔の宜野湾）においても、未来のまち（未来予想図）においても「知って良かった」という満足度は高かった。
- ・事前に知ることなく立ち寄った来場者の滞在時間が長かったことから、「知る機会をつくる活動」を行うことが、県民・市民の興味を高めるものと考えている。
- ・普天間飛行場の歴史（戦前の生活、飛行場になった理由等）と、返還後の未来予想図を比較して伝えることで、市民（今回は、子どもと 30 代～40 代）には、驚きや期待の反応が見られた。

（４）－２ 意見聴取について

- ・今回のアンケートは、自由記述のみとしたため、単に選択肢を選ぶのではなく、今までとは違う視点で、市民の生の声「キーワード」が集まった。
- ・今後、対象や設定を変えながら、継続することで、多くの県民・市民の幅広い意見聴取と興味を喚起させることが期待できる。

（４）－３ 内容について

- ・今回、不特定多数の県民・市民を対象に開催したイベントとして、直接市民が見て、触れて、体験してもらえる機会を含め、多くの収穫を得られた。
- ・今回は、原風景模型とVRによるゲームという手法を使い、情報を知識として発信することに留まらず、体験する（体を動かす、触れる、試す、感じる等）ことで市民自ら考え、意識を高める機会を提供できた。

(4) - 4 今後の検討課題

- ・周知の徹底
 - ※告知方法の拡充、出展イベントの選択
- ・体験型コンテンツの充実
- ・定性的な県民・市民の意見の収集 ※定量的なものとも併せても可
- ・対象年齢層の拡大

今回の重点対象とした幼児、子どもという低年齢層に対しては、引き続き啓発活動を続けるとともに、もう少し 10 代後半・20 代の年齢層にもアプローチすることで、より幅広い啓発と動向が確認できる。

今後も、県民・市民に対して、体験しながら、よりわかりやすい情報発信活動を継続する。それらの活動は、県民・市民が「自ら考えるきっかけ」と捉え、幅広い意見の収集をしていくことが、地権者等の合意形成に向けた気運の醸成につながる、と考える。

(5) 展示物

(5) - 1 パネル (実寸サイズ : B1)

① みんなの家は



② 普天間飛行場のこと

普天間飛行場のこと

**宜野湾市の約 1/4
那覇新都心の 2.2 倍**

普天間飛行場の総面積
4.763km² (476.3ha)

基地の面積
国・県・市の土地 約 11%
民間の土地 約 89%

普天間飛行場の歴史的経緯

1945 年 4 月	太平洋戦争時、米軍の沖縄上陸により 沖縄戦開始
6 月ごろ	米軍に土地を接収され、本土決戦に備えて 普天間飛行場建設開始
6 月 23 日	沖縄戦での組織的戦闘が終了
1962 年	米軍が基地のフェンス設置開始
1972 年 5 月 15 日	沖縄の本土復帰
1978 年	ハンビー飛行場の返還に伴い、 その基地機能が普天間飛行場へ移され、 現在のような運用形態へ

③ くらべてみよう 普天間飛行場 今・昔

くらべて見よう！ 普天間飛行場 今・昔

今

飛行場となってから

昔

人々がくらしていたころ

橘型は、このエリアだよ！

④ 普天間飛行場 ここはどんなところ (シマの基層)



⑤ 模型でわかる地形と緑を活かした集落のようす



⑥ 模型でわかる昔の集落のようす (旧宜野湾集落)



⑦ 模型でわかる昔の集落のようす（神山集落）



⑧ 基地がまちになればこんなに変わる



⑨ 未来のまちのキーワード 緑の中のまち



(5) - 2 VR体験コーナー説明パネル(実寸サイズ:A3)

コース1

訪れたくなるまち



コース2

暮らしたくなるまち



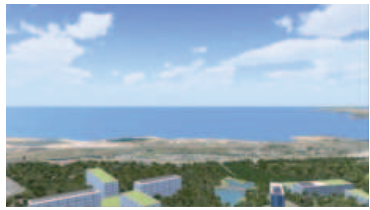
コース3

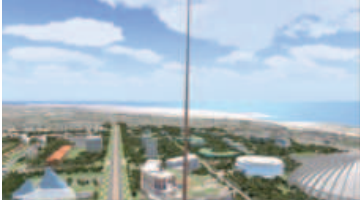
働きたくなるまち



(5) - 3 シアター映像 画コンテ (約 8 分)

今までに作成したPVを再編集し飛行場跡地にこんなまちができれば、というイメージをできるだけわかりやすくまとめた。またシアター観賞後にアンケートについて答えるためのきっかけの役割も果たすことも企図した。さらに展示コーナーへの導入（イントロ）の役割も果たしている。

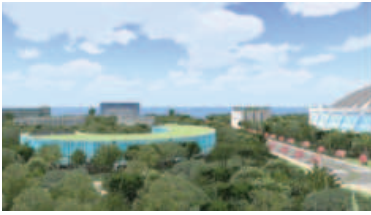
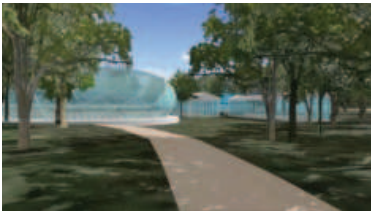
No	時間	映像	ナレーション
00	3 秒 /3 秒		
01	32 秒 /35 秒		これから、みなさんと一緒に、 普天間飛行場の未来のまちを 想像してみましょう。 ここでは、地形や樹林 地下に流れている水、 暮らしていた人たちの生活や 知恵を活かした 新しいまちをイメージしてみました。 まずは、あのタワーまで行ってみましょう。
02	9 秒 /44 秒		ゴールデンシャワーの並木道。 ここはまちのメインストリート。
03	9 秒 /53 秒		タワーに登ってみましょう。 展望台から、西海岸が見えてきました。
04	4 秒 /57 秒		タワーの麓には 池のある大きな公園。

No	時間	映像	ナレーション
05	7 秒 /1 分 04 秒		世界中から、 たくさんの人たちが集まっています。
06	15 秒 /1 分 19 秒	 	公園のイメージをちょっと変えてみましょう。 建物や緑の配置をかえると、こんなふうになります。
07	7 秒 /1 分 26 秒		他のところにも、目を向けてみましょう。 スタジアムとアリーナが見えてきました。
08	6 秒 /1 分 32 秒		アリーナの入口に降りてみましょう。
09	8 秒 /1 分 40 秒		多くの人が集い 楽しそうにおしゃべりしています。
10	7 秒 /1 分 47 秒		では、タワーに戻り アリーナの左側に目を向けてみましょう。

No	時間	映像	ナレーション
11	8 秒 /1 分 55 秒		ちょっと変わった青い屋根が見えます。 横の広場に降りてみましょう。
12	9 秒 /2 分 4 秒		広場の水上ステージ、 イベントをやったら楽しそうですね。
13	9 秒 /2 分 13 秒		となりでは青空マーケットが開かれています。 沖縄の野菜や果物であふれています。
14	10 秒 /2 分 23 秒		風通しのいい空中庭園。 ここからも海岸が見渡せます。
15	11 秒 /2 分 44 秒		タワーの展望台に戻りましょう。 更に見渡すと 東海岸も見えます。 下に降りて、街並みを歩いてみましょう。
16	16 秒 /3 分 00 秒		ここは、並松街道。 昔、琉球王国の王様も通った 琉球松の並木道をイメージしています。
17	17 秒 /3 分 17 秒		近くには、歴史公園があります。 琉球王国時代から引き継がれた 沖縄の文化を体験できます。

No	時間	映像	ナレーション
18	17 秒 /3 分 34 秒		少し歩くと、馬場公園があります。 昔このあたりにあった集落では、 馬を競わせたり、闘牛をしたり、みんなの楽し みの場があちらこちらにありました。 そんな風景をイメージした公園です。
19	8 秒 /3 分 42 秒		湧き水を活かした水辺の広場。
20	8 秒 /3 分 50 秒		昔、集落の行事や生活で使われていたカーを、 そのまま残しています。
21	15 秒 /4 分 05 秒		地下の水の道にそって、小川が流れています。
	10 秒 /4 分 15 秒		緑と水にあふれた未来のまちのイメージです。
23	7 秒 /4 分 22 秒		未来のまちには、 みんなが暮らす住宅もあります。
24	8 秒 /4 分 30 秒		涼しい風を送り出す木々の横には、 石垣に囲われた、戸建て住宅。

No	時間	映像	ナレーション
25	5 秒 /4 分 35 秒		こちらは集合住宅
26	8 秒 /4 分 43 秒		家々の間には、木々や花々があふれ、 そこでは子どもたちが遊んでいます。
27	7 秒 /4 分 50 秒		まちの中の住宅は、 低い建物だとこんなふうに見えます。
28	9 秒 /4 分 59 秒		高層マンションにするとこんな風に見えます。 いろいろイメージを膨らませてみましょう。
29	6 秒 /5 分 05 秒		住宅街を通り抜けると 広場が見えてきました。
30	7 秒 /5 分 12 秒		散歩をしたり、ピクニックをしたり、 憩いの場となります。
31	16 秒 /5 分 28 秒		大きな災害の時には、 みんなの避難場所にもなります。 心地良い風を取り込み、安全で安心して暮らせる 未来のまちのイメージです。

No	時間	映像	ナレーション
32	10 秒 /5 分 38 秒		未来のまちは、世界中から働く人が 集まって来るまち。
33	22 秒 /6 分 00 秒		働く場所を覗いてみましょう。
34	14 秒 /6 分 14 秒		働く場所の周りにも、沢山の緑があります。
35	10 秒 /6 分 21 秒		あれ？なんか変わった建物。
36	7 秒 /6 分 28 秒		植物を育てているようですね。 何を作っているのでしょうか。
37	5 秒 /6 分 33 秒		次は、学ぶ場所を見てみましょう。
38	4 秒 /6 分 37 秒		ここにも、緑がいっぱい。

No	時間	映像	ナレーション
39	6 秒 /6 分 43 秒		世界中から学生が集まっています。
40	4 秒 /6 分 51 秒		楽しむ場所を見てみましょう。
41	8 秒 /6 分 59 秒		ここは、桜並木。 日本一早くお花見ができますね。
42	3 秒 /7 分 02 秒		ホテルを覗いてみましょう。
43	7 秒 /7 分 09 秒		屋上のプールからは 海を眺めながら、楽しむことができます。
44	34 秒 /7 分 43 秒		世界中から人々が集まり、暮らし、働き、学び、楽しむ そんな、普天間飛行場の未来のまち。 みなさんも、想像してみませんか。
45	5 秒 /7 分 48 秒		

3. 跡地利用についてのイベント（その2）

本節では、イベント2の目的、概要及び結果概要について整理した。

（1）イベントの企画 実施目的

普天間飛行場跡地利用に向けての取組を、県民に広く周知し、返還後のまちづくりに関する気運醸成を図ることを目的とする。過年度までの成果品を用いた展示会を開催することで、今後の展望に夢を抱いてもらう機会を創出する。

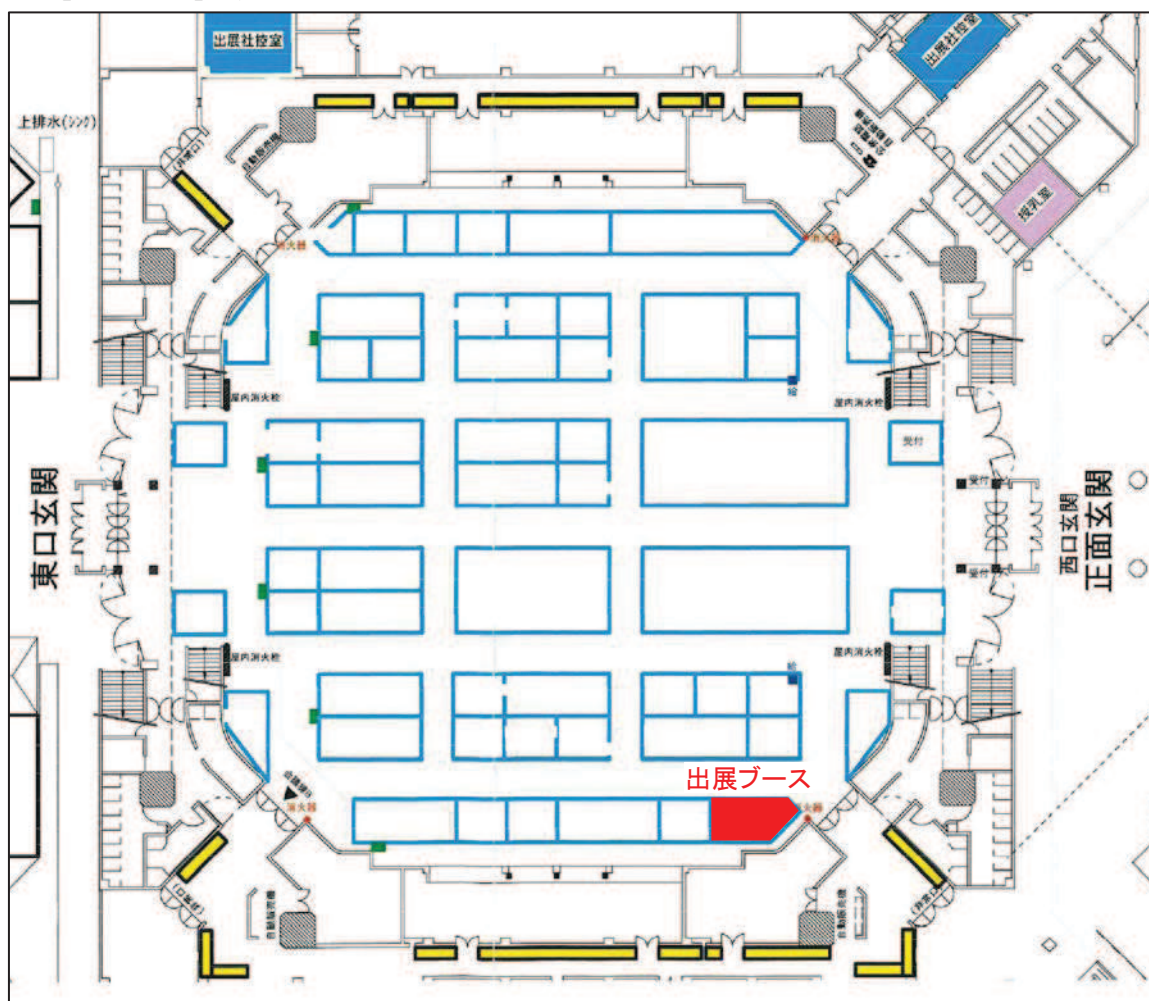
「沖縄県トータルリビングショウ」には、住まいや暮らし等に関心のある人々の来場が想定されるため、普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力、みどりの中のまちづくりをはじめ、普天間ライフスタイルイメージを展示することで来場者の興味を喚起する。併せて、アンケート調査を実施することにより、広く県民の意見を聴取する。

（2）開催概要

（2）－ 1 開催概要

【開催日時】平成30年10月19日（金）～21日（日） ＜3日間＞
10：00～18：00

【開催場所】沖縄コンベンションセンター展示棟



図Ⅲ－2 イベント（その2）会場全体図

(2) - 2 展示内容

(2) - 2 - 1 展示のストーリー

【イントロ】

これまで沖縄県・宜野湾市が共同で検討を進めてきた「普天間飛行場跡地利用計画（中間取りまとめ）」（H25.3）よりパネルを作成し、計画内容全体を知ってもらう。また、航空写真を出力したマットを敷くことで、普天間飛行場の位置や規模等を来場者に把握してもらう。

パネル「配置方針図（中間取りまとめ）」
「計画づくりの方針（中間取りまとめ）」



モニター1

イベント1で使用
したシアター
映像

関連パンフレット①

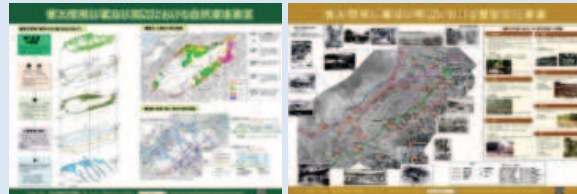
全体計画の
中間取りまとめ

【普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力（シマの基層）】

普天間飛行場及び周辺における自然環境自然・歴史文化資源を展示し、普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力を知ってもらう。また、宜野湾・神山集落写真（米軍撮影）を出力したマットを敷くことで、かつて集落があったことを来場者に把握してもらう。

パネル「自然環境資源」
「歴史文化資源」

パネル「昔の集落の様子」



関連パンフレット②

原風景模型

【跡地利用による経済効果と緑の中のまちづくり】

普天間飛行場がまちになることでもたらす経済効果や、緑が人や環境にもたらす効果を示すことで、跡地利用の重要性と未来の普天間飛行場跡地に夢を抱いてもらう。

パネル「跡地利用による
経済効果」

パネル「緑の効果」



モニター2

イベント1で使用
したP V
①シマの基層
（3分13秒）
②緑の中のまち
づくり
（6分01秒）

【新しい沖縄のライフスタイル】

新しい沖縄のライフスタイルを紹介することで返還後のライフスタイルを具体的にイメージしてもらう。

パネル「新しい沖縄のライフスタイル」
「ライフスタイルを支える機能」



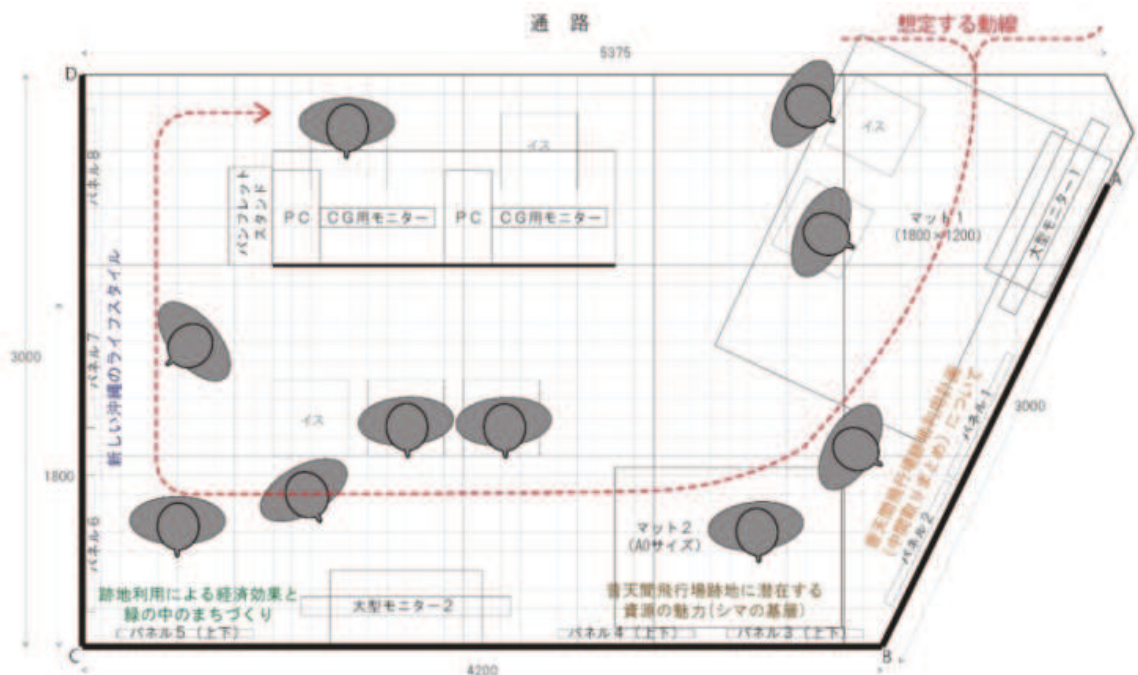
【イメージCGまちあるき体験コーナー】

未来の普天間をイメージしたCGの中でまち歩きを体験できるコーナーとし、今後の展望に夢をいだいてもらう。また、跡地利用における方針を説明するポップアップの出現により、具体的な計画内容を知ってもらう。



アンケートによる意見聴取

(2) - 2 - 2 ブースレイアウト (平面図)



図Ⅲ-3 イベント（その2）ブースレイアウト（平面図）

表Ⅲ-3 イベント（その2）展示内容

パネル等	大型モニター
・航空写真マツト(現在の航空写真に宜野湾市域、飛行場範囲を図示)	モニター1:シアター映像を上映
○普天間飛行場跡地利用計画(中間取りまとめ)について	
・パネル1:普天間飛行場跡地利用計画の中間取りまとめ「配置方針図」 ・パネル2:普天間飛行場跡地利用計画の中間取りまとめ 「計画づくりの方針に関する提言」	—
○普天間飛行場の魅力(シマの基層)	
・パネル3(上段):「普天間飛行場及び周辺における自然環境資源」 ・パネル3(下段):「普天間飛行場及び周辺における歴史文化資源」 ・パネル4(上段):「模型でわかる地形と緑を活かした集落のようす」 ・パネル4(下段):「模型でわかる戦前の集落の様子」 ・小パネル1～3:「歴史文化資源に関連する写真」 ・宜野湾・神山集落写真マツト(1945年に米軍により撮影された航空写真)	モニター2: PV(シマの基層)を上映
○緑の中のまちづくり	
・パネル5(上段):「基地がまちになれば、こんなに変わる!」 ・パネル5(下段):「未来のまちのキーワード」	モニター2: PV(緑の中のまちづくり)を上映
○新しい沖縄のライフスタイル	
・パネル6:新しい沖縄のライフスタイル① ・パネル7:新しい沖縄のライフスタイル② ・パネル8:新しい沖縄のライフスタイルを支える機能 ・小パネル4～9:「VRより切り出したシーンカット」	—
○イメージCGまちあるき体験コーナー	
VRの中から中央エリアを切り出し、編集したコース設定とする。 目的地到着時に説明が出る等の仕掛けを追加し、2台を設置する。	—

(2) - 2 - 3 ブースレイアウト (展開図)



図Ⅲ-4 イベント (その2) ブースレイアウト (展開図)

(2) - 3 周知方法

(2) - 3 - 1 沖縄県トータルリビングショウ事務局による周知

沖縄県トータルリビングショウ事務局においては、県内の新聞紙面やテレビ・ラジオCM等の様々なメディアを活用することで、イベント開催について、県内に広く周知している。

そのことから、既存の大型展示イベントへ出展することで、個別での展示イベント実施に比べて、周知に係る費用を抑えながら広く県民に対してイベント開催に関する周知が可能となった。

また、新聞広告による周知では、各ブースの出展内容を掲載する出展社紹介や出展社の広告を掲載する特集下連合広告も掲載され、沖縄県と宜野湾市が共同で普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けて取り組んでいることを県民に広く周知することができたと考えられる。

①テレビ・ラジオCM等による周知

【テレビCM】

放送局	琉球放送（スポット）	琉球朝日放送
期 間	平成30年9月16日～10月21日	
本 数	64本	101本

【ラジオCM】

放送局	RBCiラジオ	エフエム沖縄
期 間	平成30年9月16日～10月21日	
本 数	39本	50本

【大型ビジョン ティーダ（浦添市）】

期間：平成30年10月5日～10月21日

本数：530本

【モノレール広告】

期間：平成30年10月15日～10月21日

全34車両に1枚ずつ掲出

②新聞記事・広告による周知

沖縄タイムス ●記事

掲載日	掲載内容	掲載面
9月22日(土)	第32回トータルリビングショウ	1頁/総合面
10月18日(木)	えっ まだ食べたこと、ないの？って思わず自慢したくなる店特集	22頁/かなさうちな-むん面
10月19日(金)	住まいの情報一堂に/トータルリビングショウ/宜野湾できょう開幕	3頁/経済面
10月19日(金)	第32回沖縄県トータルリビングショウ 住まい夢空間	16-17頁/広告特集面
10月20日(土)	夢の住まい 魅力の提案/宜野湾でトータルリビングショウ	1頁/総合面
10月20日(土)	停電対策 蓄電池に関心/リビングショウ 木造住宅も人気	11頁/経済面
10月20日(土)	第32回トータルリビングショウ/広がる快適住まい/あすまでコンベンション	19頁/特集面
10月21日(日)	健康意識し家造り/壁材に漆喰 関心集まる/リビングショウ きょうまで	8頁/経済面
10月21日(日)	老後生活考え片づけ	8頁/経済面
10月22日(月)	外間さん最優秀賞/こども絵画コンクール	24頁/社会面
10月22日(月)	「空間に先人の知恵を」/琉球風水師横川さん講演 リビングショウ閉幕	24頁/社会面

沖縄タイムス ●広告

掲載日	広告枠	掲載内容	掲載面
9月26日(水)	TVタテ突出し	開催告知(多色)	TV頁
9月27日(木)	TV番組下	開催告知(多色)	TV頁
9月28日(金)	TV番組下	開催告知(多色)	TV頁
9月29日(土)	全5段	開催告知(多色)	21頁/地域面
9月30日(日)	TV記事中	開催告知(多色)	TV頁
10月2日(火)	全5段	開催告知(多色)	22頁/全面広告面
10月3日(水)	TV記事中	開催告知(多色)	TV頁
10月4日(木)	特集	出展社紹介シリーズ(モノクロ)	25頁/全面広告面
10月4日(木)	TVタテ突出し	開催告知(多色)	TV頁
10月5日(金)	全5段	開催告知(多色)	23頁/全面広告面
10月6日(土)	TVタテ突出し	開催告知(多色)	TV頁
10月7日(日)	TV記事中	開催告知(多色)	TV頁
10月8日(月)	全5段	開催告知(多色)	9頁/国際面
10月10日(水)	TV記事中	開催告知(多色)	TV頁
10月11日(木)	TVタテ突出し	開催告知(多色)	TV頁
10月12日(金)	特集	出展社紹介シリーズ(モノクロ)	15頁/全面広告面
10月13日(土)	TV記事中	開催告知(多色)	TV頁
10月14日(日)	特集	出展社紹介シリーズ(防災・防犯フェア)(多色)	11頁/全面広告面
10月16日(火)	特集	出展社紹介シリーズ(モノクロ)	24頁/全面広告面
10月16日(火)	TV番組下	開催告知(多色)	「出展社紹介」の掲載
10月17日(水)	全5段	開催告知(多色)	
10月17日(水)	TV記事中	開催告知(多色)	TV頁
10月18日(木)	特集	出展社紹介シリーズ(モノクロ)	10頁/全面広告面
10月18日(木)	オレンジむら	開催告知(多色)	6頁/経済面
10月18日(木)	TV番組下	開催告知(多色)	TV頁
10月19日(金)	特集	開催日初日特集(多色)	16-17頁/広告特集面
10月19日(土)	TV記事中	開催案内(多色)	TV頁
10月20日(土)	全5段	開催案内(多色)	24頁/社会面
10月20日(日)	TV記事中	開催案内(多色)	「特集下連合広告」の掲載
10月21日(土)	全5段	開催最終日案内(多色)	

コレカモ!

● 告 告

掲載日	広告枠	掲載内容	掲載面
9月8日(土)	全面広告	開催告知	4頁

日刊スポーツ ● 告 告

掲載日	広告枠	掲載内容	掲載面
9月30日(日)	全5段	開催告知(多色)	12頁
10月6日(土)	全5段	開催告知(多色)	12頁
10月7日(日)	全3段	開催告知(多色)	1頁
10月11日(木)	全5段	開催告知(モノクロ)	10頁
10月16日(火)	全3段	開催告知(多色)	1頁
10月19日(金)	全5段	開催案内(多色)	9頁
10月20日(土)	全3段	開催案内(多色)	1頁

週刊タイムス住宅新聞 ● 記 事

掲載日	掲載内容	掲載面
8月24日(金)	こども絵画コンクール応募情報	5頁
10月12日(金)	併催事業 講師 大湾かよこさん・稲垣暁さん・横川明子さん紹介	6～7頁
10月19日(金)	こども絵画コンクール	1～5頁
10月19日(金)	開催告知&併催事業紹介等	12～13頁
10月26日(金)	トータルリビングショウレポート	12～13頁

週刊タイムス住宅新聞 ● 告 告

掲載日	広告枠	掲載内容	掲載面
8月3日(金)	全5段	こども絵画コンクール応募情報(多色)	17頁
8月17日(金)	全5段	こども絵画コンクール応募情報(多色)	17頁
8月24日(金)	全3段	こども絵画コンクール応募情報(多色)	15頁
8月31日(金)	全5段	こども絵画コンクール応募情報締切間近(多色)	9頁
9月7日(金)	全3段	こども絵画コンクール応募情報(多色)	17頁
9月14日(金)	全3段	こども絵画コンクール応募情報(多色)	22頁
10月5日(金)	全11段	開催告知(多色)	8頁
10月12日(金)	全11段	開催告知(モノクロ)	10頁
10月19日(金)	全5段	開催告知(モノクロ)	18頁

週刊ほ〜むぷらざ ● 記 事

掲載日	掲載内容	掲載面
8月9日(木)	こども絵画コンクール	9頁
9月6日(木)	こども絵画コンクール	9頁

週刊ほ〜むぷらざ ● 告 告

掲載日	広告枠	掲載内容	掲載面
8月16日(木)	全3段	こども絵画コンクール(多色)	10頁
8月30日(木)	全3段	こども絵画コンクール(多色)	17頁
9月13日(木)	全5段	こども絵画コンクール応募情報(多色)	9頁

③出展社紹介

平成 30 年 10 月 18 日の沖縄タイムス紙面においては、本イベントの出展ブースである「普天間未来予想図」に関する紹介が掲載された。

普天間未来予想図事務局



住所 那覇市久茂地 1-2-20
電話 098(864)5638

普天間未来予想図

沖縄県と宜野湾市は、返還が予定されている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討を共同で行っています。さまざまな人が集い、暮らし、働き、楽しむ、そんな未来のまちのイメージを紹介し、広く県民のみなさまが跡地におけるまちづくりについて考えていただくきっかけになればと思います。

展示内容としては、跡地におけるまちづくりを「普天間未来予想図」と題して「緑の中のまちづくり」「新しい沖縄のライフスタイル」をテーマに、プロモーションビデオや普天間の未来をイメージしたCGの中でまち歩きを体験できるコーナーの他、跡地利用に向けた検討内容も紹介します。

④特集下連合広告

平成 30 年 10 月 19 日の沖縄タイムス紙面においては、出展社である「普天間未来予想図事務局」の広告が掲載された。

沖縄県と宜野湾市が共同調査を行っています

普天間未来予想図

飛行場跡地

<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mirai/>

普天間未来予想図事務局

(株)URリンケージ・(株)オリエンタルコンサルタンツ・(株)国建・玉野総合コンサルタント(株)

調査業務共同企業体

連絡先：(株)国建(電話)098-864-5638 (FAX)098-862-8849

(2) - 3 - 2 県・市ホームページによる周知

普天間未来予想図

飛行場跡地

体験イベント

第32回沖縄県
トータルリビングショウに出展します。

沖縄県と宜野湾市は、返還が予定されている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討を共同で行っています。さまざまな人が集い、暮らし、働き、楽しむ、そんな未来のまちのイメージを紹介し、広く県民のみなさまが跡地におけるまちづくりについて考えていただくきっかけになればと思います。

展示内容としては、跡地におけるまちづくりを「普天間未来予想図」と題して、「緑の中のまちづくり」、「新しい沖縄のライフスタイル」をテーマに、プロモーションビデオや普天間の未来をイメージしたCGの中でまち歩きを体験できるコーナーの他、跡地利用に向けた検討内容についても紹介しております。

見て、体験して、みんなで未来のまちをイメージしてみませんか。

未来のまちのイメージCGまち歩き体験



未来のまちを歩いてみよう！

「緑の中のまちづくり」



緑が
まちの魅力を高め、
暮らしを
豊かにする？

「新しい沖縄のライフスタイル」



普天間飛行場跡地の
未来のまちで
実現したい
ライフスタイルは？

2018 年

10月 19 日 (金) ~ 10月 21 日 (日)

10:00 ~ 18:00

沖縄コンベンションセンター
展示棟

会場案内図



「普天間未来予想図」ブース

【お問い合わせ】
普天間未来予想図事務局 [(株)国建 内]
連絡先: (電話) 098-864-5638 (FAX) 098-862-8849

(3) 開催報告

(3) - 1 来場者数及び実施の様子

3日間のイベントブース来場者数は、合計 1,507 名となっており、日曜日の来場者が最も多く 729 名であった。来場者の約 23%がCGまちあるき体験を行っており、特に子ども達に好評であった。また、アンケートにおいても「CG体験コーナーが分かりやすく、とても良かった。」「体験コーナーは子どもが楽しそうで良かった。」等の意見が多くみられた。

アンケートについては、3日間で 99 票となっており、回収率約 7%と低くなっている。本イベントへの来場者の主な目的は、会場内の各ブースを見て回ることであり、そのことがアンケートの回収率が上がらなかった要因の一つであると考えられる。

表Ⅲ-4 イベント（その2）日別・時間別来場者数及びアンケート回収状況

日程	10/19(金)		10/20(土)		10/21(日)		合計	
天気	晴れ		晴れ		晴れ			
	ブース 来場者	CG 体験	ブース 来場者	CG 体験	ブース 来場者	CG 体験	ブース 来場者	CG 体験
10:00～11:00	56	—	61	7	72	15	189	22
11:00～12:00	46	—	82	18	146	38	274	56
12:00～13:00	20	—	95	13	94	35	209	48
13:00～14:00	29	—	41	13	118	31	188	44
14:00～15:00	39	—	76	21	86	19	201	40
15:00～16:00	20	—	93	18	124	27	237	45
16:00～17:00	32	—	60	9	53	13	145	22
17:00～18:00	4	—	24	12	36	10	64	22
合計	246	—	532	111	729	188	1,507	299
アンケート回収数	30		42		27		99	
イベント全体来場者	4,797		10,512		15,074		30,383	

① 1日目：平成 30 年 10 月 19 日（金）



② 2日目：平成 30 年 10 月 20 日（土）



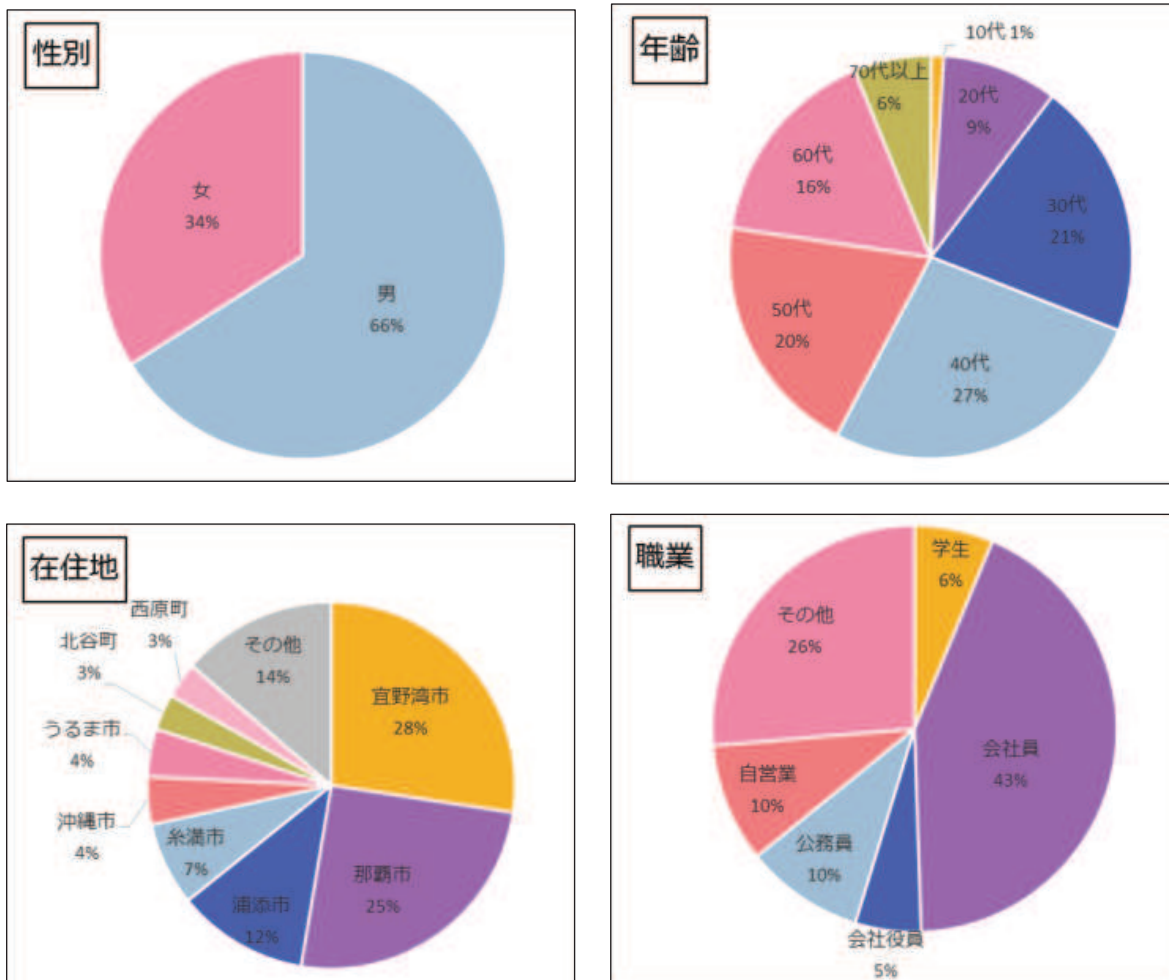


③ 3日目：平成 30 年 10 月 21 日（日）

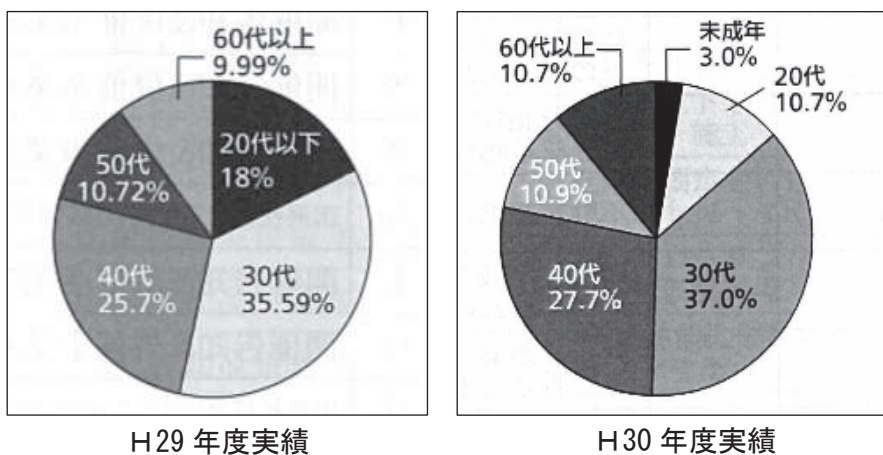


(3) - 2 アンケート結果

沖縄県トータルリビングショウへ訪れる客層としては、例年、住宅や住まいに関心の高い 30～40 代が最多となっており、本ブースでのアンケート調査においても、30～40 代が 48%と高い割合となっている。しかし、実際に訪れる客層は、子ども連れの 20～30 代の夫婦の来場者が多くみられた。



【参考】沖縄県トータルリビングショウ来場者の年齢層（アンケート調査より）



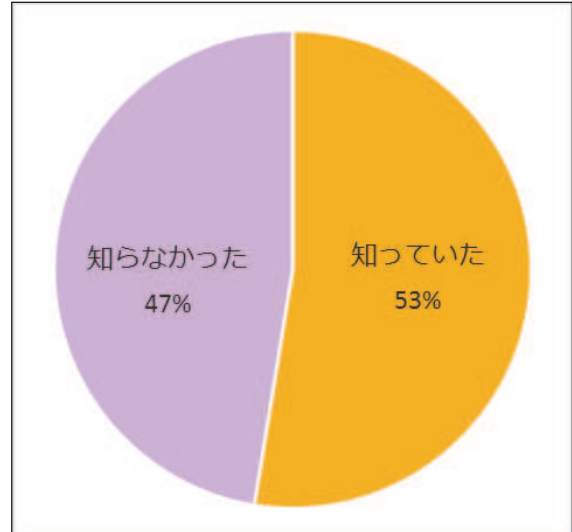
設問 1

沖縄県と宜野湾市が、返還を予定されている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討を共同で行っていることについてご存知でしたか？

「知っていた」と答えた人が 53%、「知らなかった」と答えた人が 47%であった。

自由意見の中では、「跡地利用計画がこんなに進んでいることを初めて知った。」「跡地利用に向けた計画を立てていることと思っていたが、知らないことが多かった。」等の意見があった。

今後も引き続き、県民に広く周知を図っていく必要があると考えられる。

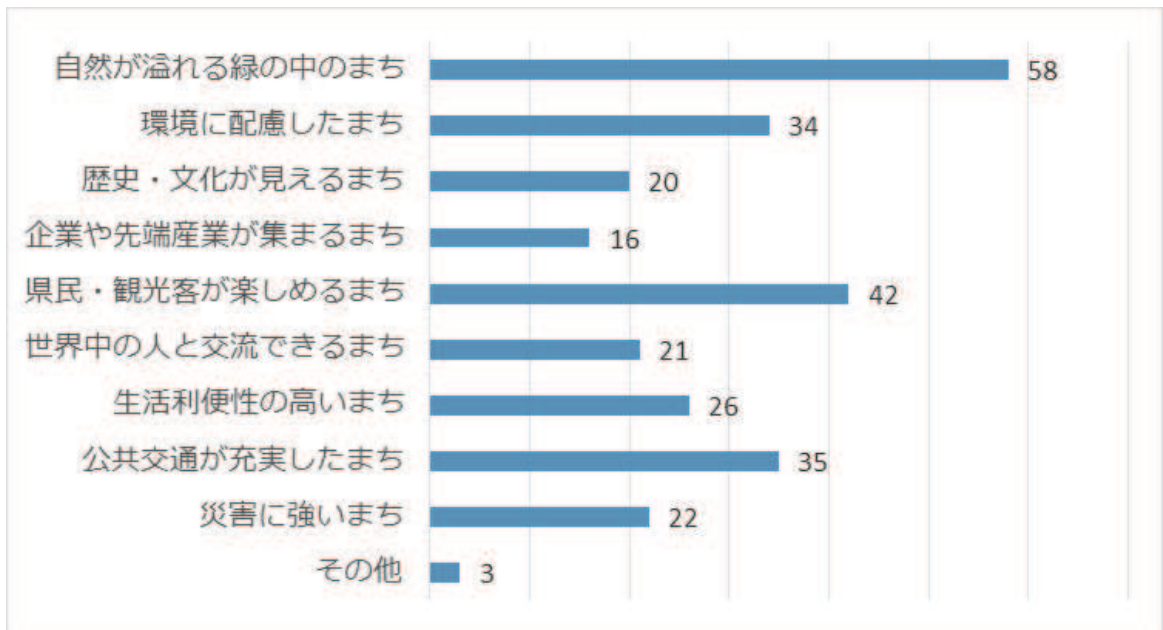


設問 2

普天間飛行場跡地がどんなまちになったらいいと思いますか？（3つまで選択）

「自然が溢れる緑の中のまち」が最も多く、次いで「県民・観光客が楽しめるまち」、「公共交通が充実したまち」となっている。

その他の意見としては、「シルバー世代が安心・安全に暮らせるバリアフリーの町」、「国際的高等教育機関」、「スポーツ施設、健康施設」を求める意見があった。



設問3

今回の展示を見て、ご意見・ご感想などございましたら、ご自由にお書きください。

①イベントについて

- ・とても興味深かった。サイトもみてみたい。
- ・返還後の未来が想像できるパネル展示であった。
- ・係員の方が丁寧に説明していただき大変良かった。
- ・具体的なお話が聞けて良かったです。未来は明るいと感じました。
- ・未来の普天間が自然があふれて環境に配慮したらいいと思う。この企画はとてもよかったと思う。
- ・わかりやすい。
- ・子供にも分かりやすい書き方をしたパネルがあったらいいと思います。

②展示内容について

- ・基地ができる前の集落、環境を知ることができた。
- ・イメージC Gにワクワクしました。実現に向けて、市民・県民、知恵をだしあっていききたい。
- ・B I Mを使い、より具体的に知れたのは良かったです。また、緑あふれる活気ある街づくりはこれからの沖縄の課題であり、実現するのを期待したいです。
- ・C Gの体験コーナーが新しく、分かりやすく、とても良かったです。
- ・C Gでの体験がとてもよかった。実際に自分が歩いているようでした。早く返還されてほしいです。
- ・基地が返還されることによって得られる経済効果について知れてよかった。今後、普天間基地が返還されるのが、待ち遠しくなった。
- ・V Rが面白かったです。
- ・C G体験が大変おもしろかったです。
- ・C Gの3 Dスティックが素晴らしかった。
- ・C Gで未来の形を見られるのでおもしろい。
- ・V Rでとても分かりやすい。
- ・シミュレーションとパネル展示見やすかったです。
- ・普天間飛行場の経済的な阻害の大きさにびっくりした。
- ・昔はこういう風な街並だったのかと思ったのと、近い将来の街並に期待が高まった。
- ・戦前の宜野湾の様子を知ることができた。興味深い。歴史的に重要なものが基地の下にねむっているかもしれない。
- ・体験コーナーで子供が楽しそうで良かったです。
- ・C G体験コーナーは子供達が楽しそうで良かったです。
- ・新しい沖縄のライフスタイルに興味がありました。普天間飛行場跡地に新しいすてきなまちができることを楽しみにしています。
- ・体験コーナーで子供たちがよろこんでいました。

③跡地利用について

- ・世界にほこれる町づくりを希望します。
- ・電線地中化を実現してほしい。那覇新都心の住宅地域のようにほしくないでほしい。
- ・年配の人が自由に移動できるまち。平坦な普天間だから実現可能だと思う。
- ・年配の人が楽しめる商業店舗があると良い。巣鴨のようなイメージ。
- ・鉄道の計画も含めると良いと思う。
- ・立地もとても便利な場所にあるので、市内外の人々が立ち寄って活性化され、地元へも還元していくまちづくりがイメージでき、良かったです。
- ・見ていだけで楽しく過ごせそう。こんな町ができるといいだろうな。緑多き町をめざして!!
- ・大学を誘致してほしい。普天間高校を是非ここへ。モノレールも通して欲しい。
- ・早めの都市計画で安心しました。騒音で悩まされている宜野湾（我如古）の住民としては、その具体的な案を早めに提示して、検討させてほしい。
- ・子孫の為に美田は残すべきと考えた。
- ・返還合意から早 20 年以上。遅々と進まないよう計画は立てていることと思っていましたが、知らないことが多かった。生活利便性だけでなく自然を活かす計画が必要だと思います。
- ・世界に例のないまちづくりの夢を感じる。返還軍用地の跡地利用は県民の明るい未来を想像するだけでも楽しい。しかし夢だけに終わりそうな政治状況は良くない。辺野古に早く決めてもらって、国の協力によって普天間まちづくりの夢を実現したいものです。特に私が提案したいことは、普天間基地一周道路を造ってもらいたい。返還が不明の中でまずやるべきことは、これしかない。夢を描くより現実問題（交通など）を考えてもらいたい。
- ・沖縄は緑が少ない。景観を良くすべき。空、海がキレイなので地上をキレイにしたら日本一になると思う。
- ・戦前の集落の様子がわかった。歴史的価値のあるものを生かし、他の地域にない町づくりにしたい（日本中どこも新しい町は同じでつまらない）又は、トータルデザインを考える建築家に全部まかせたらどうか。
- ・戦前の景観を踏襲した町づくりを行ってほしい。並木街道などを復元してほしい。
- ・もう少しアジア圏を含めた国際都市構想をもって欲しい。市長はじめ、街づくりは外国での経験、視点が豊富な人材を公募すべき。
- ・宜野湾市民であるが、基地があることで交通面で不便を感じており、将来、基幹道路を中心とした町づくりにより、大いに発展が期待できると思う。
- ・どんな街にしたいのか、をぶれずにはっきりと示してほしい。もうかる町にしたいのか、子育て世代の町なのか、先端技術の町なのか。地主の意向もあるが、あれもこれも入れると中途半端になるので、目的・目標のあるまちにしてほしい。
- ・自然を残して欲しい。
- ・歩けるまち（歩行空間の確保）街路樹、緑陰・街路樹の間隔を狭くして緑陰の中を歩けるように（枝をはる樹木は良くない）。企業誘致する面積は限定して快適な生活環境

を望む。

- ・観光振興・地下水の活用必要。
- ・ハイテクノロジーを目指した街づくりもあって良いのでは。
- ・跡地に県庁をもってくる。その周辺に電車を通すことで利便性が向上する。
- ・県外から観光に訪れた人々が沖縄の観光に興味を持ち、沖縄の拠点となり、環境に配慮した町づくりを目指してほしい。

④その他

- ・どうなっていくのか？イメージできそうでできないです。
- ・実際の実現に向けてがんばって下さい。
- ・今後の基地返還跡地利用楽しみです。
- ・何年後に実際に動くのかわからない為、実感が無い。
- ・市外から来ましたが、先月の市長選もあり、宜野湾市のこと、沖縄のこと更に興味をもたなければならないと展示ブースを見て改めて思います。
- ・跡地利用計画がこんなに進んでいるとは初めて知った。
- ・飛行場が広大だと認識したことで有効活用を考えてみたい。
- ・まだまだ先の事かなと感じました。
- ・県民のアイデアを同時に募集して欲しいです。
- ・21世紀型の物はまだ見られない。
- ・土地はどうするの？多くの土地は買い占められているという話を聞いたことがある。また、土地を買い占めている人の中には中国人も含まれるらしい。中国人に土地を買われないように条例を早期に作った方がいい。
- ・早く返還されてほしい。
- ・沖縄の業者で工事を進めてほしい。
- ・早めに実現してほしい。
- ・いろいろな形で宜野湾市がもっと住みやすい町になればと思います。がんばって下さい。

(4) まとめと今後の課題

(4) - 1 来場者の反応

- ・沖縄県と宜野湾市が普天間飛行場跡地利用に向けた計画づくりに取り組んでいることに来場者は好感と感心を示す方が大半であった。
- ・中間取りまとめパンフレットを持ち帰る来場者が多く、最終日には準備した部数を全て配布し、簡易コピー版で対応するほどであった。
- ・返還時期に関する質問をする来場者が多くみられた。

(4) - 2 意見聴取について

- ・アンケートについては、記入者の多くが自由意見を記入しており、跡地への関心は高いと考えられる。

(4) - 3 内容について

- ・イメージPVを見ている方からは、CGのようなまちが実現することを望む声が多く聞かれた。アンケートにおいても「イメージCGにワクワクしました。」「CGの体験コーナーが新しく、分かりやすく、とてもよかった」等、CGによる将来イメージに関する意見が多くみられた。
- ・CGまちあるき体験と未来のまちシアターが来場者の目を引くアイテムとなり、高い集客につながったと考えられる。
- ・航空写真マットに興味を示す方が多く、普天間飛行場の規模に驚く方も多くみられた。
- ・「返還後の未来が想像できるパネル展示であった。」等、展示内容全般の評価を得られた。

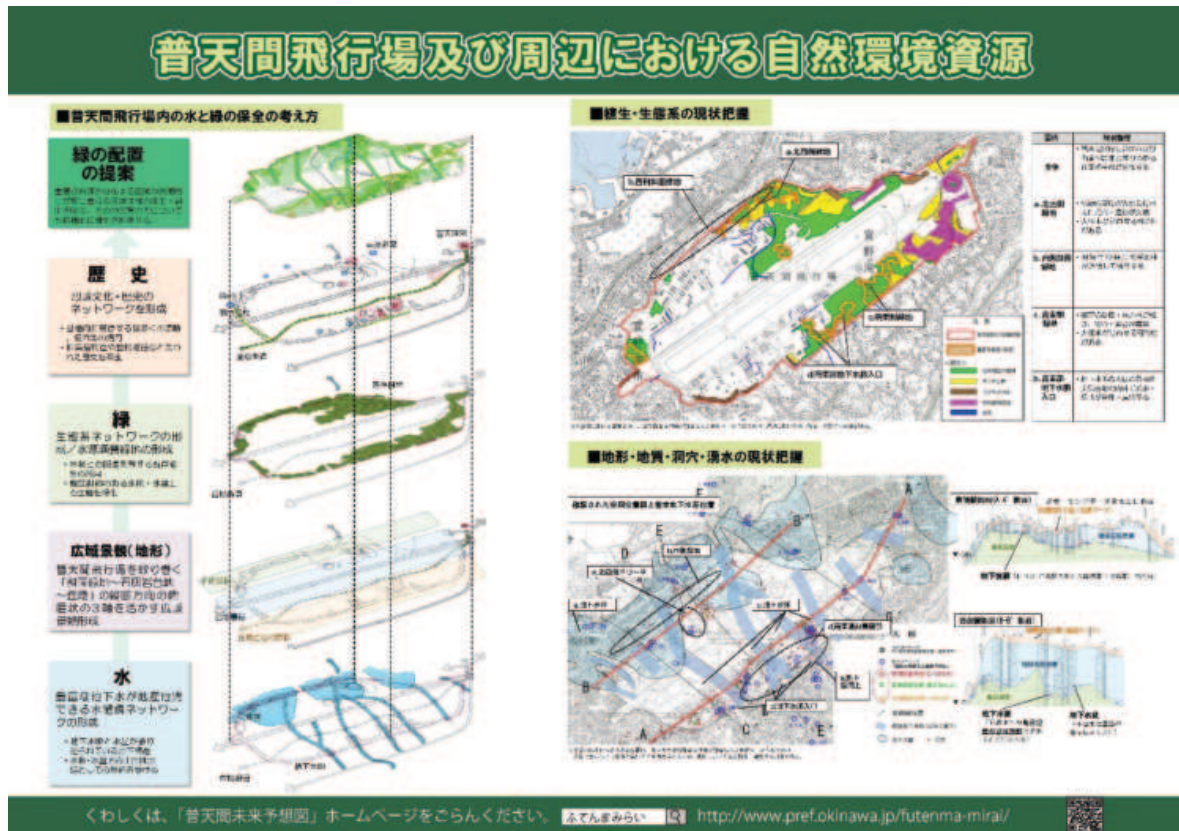
(4) - 4 今後の検討課題

これまでのシンポジウムやワークショップ等の情報発信イベントでは、普天間飛行場跡地利用計画に関心のある人々がターゲットとなっていたが、今回、不特定多数の県民が訪れるイベントへ出展することで、これまで普天間飛行場跡地利用計画への関心が決して高いとはいえない県民への情報発信が可能となった。そのため、広く県民への周知を行う手法として、県内の大規模イベントへの出展は効果的であると考えられる。

本イベントでは、CGまちあるき体験や未来のまちシアター、航空写真マット等のビジュアル的な展示品への関心が高かったため、今後もVRの活用等、ビジュアル的な情報発信を継続すべきだと考えられる。

今後の課題としては、イベント1（普天間未来予想図 夏休み特別企画体験イベント）同様、10代後半の来場者が少なかったことから、10～20代の若い世代をターゲットとした情報発信の方法を検討する必要がある。

③パネル3（上段）



④パネル3（下段）



⑤ パネル4（上段）

模型でわかる地形と緑を活かした集落のようす

風から集落や畑を守っていた緑地

●まどまった緑地やついでたのように木が植えられたところは、農地を北風から守るためと考えられます。

全体を北西から見ると土地の高低差がわかります。

●西側の斜面にある緑地は、西海岸から強くふき上げる北風を和らげています。

並松街道

●並松街道は、普天満宮へお参りに行く道の景色づくりだけでなく、北風を和らげる効果上げるために琉球松が植えられたと考えられます。

家の向きと屋敷林

●集落の屋敷は、そのほとんどが南側から入り込みました。北側には屋敷林があり、冬は冷たく強い北風をさえぎり、夏は涼しい南風を取りこんでいました。屋敷林の他にも、石がきの屋敷間や、土壌の上に屋敷林を植えていた家も多くありました。

ふてんまみらい <http://www.pref.kanagawa.jp/about/majal/>

⑥ パネル4（下段）

模型でわかる戦前の集落の様子

① 村役場

かつての宜野湾集落に村役場があり、宜野湾の中心的な集落でした。

② 宜野湾ツマヤ（馬場）

宜野湾ツマヤでは、2頭の馬を飼育させるツマヤ（馬場）という施設を行っていました。この施設には、多い時には馬内からうり馬が参加しました。

③ 宜野湾並松街道

徳川幕府の時代、尚賢王が普天満宮を初めて参詣した1644年から整備が始められました。約5kmの普天満宮街道の両側には、琉球松が立ち並び、大木がつくるみかげは普天満宮参りの参道に導きをもたらしました。約3,000本の琉球松は、1932年（昭和7年）に国指定天然記念物に指定されましたが、戦中戦後にほとんどが切られてしまい、わずかに残った松も、台風やマツクイムシの被害に会い、今はその姿を見ることはできません。

④ 神山のメヌカー（道標）

一年中流みだった水が流れていた川です。毎日使う水や正月の茹きなどに使われていました。

⑤ 神山テラガマ洞穴遺跡

神山集落の排水（ゆきまつてゆわろ）です。今でも人々が使っている場所です。普天満宮の女神信仰を伝えるなど、神山と宜野湾市にとって重要な場所です。

旧 宜野湾集落

旧 神山集落

ふてんまみらい <http://www.pref.kanagawa.jp/about/majal/>

⑦パネル5（上段）



⑧パネル5（下段）



⑨ パネル 6

新しい沖縄のライフスタイル

普天間飛行場跡地に新しい街ができた時、
どのようなライフスタイルが実現できるのか
イメージしてみました。

どんな人が住み、働くの？

- 子どもの誕生を機に県内から越してきた家族
- 先祖から引き継ぐ土地に戻ってきた地権者
- 高校進学のため、単身で越してきた離島出身の学生
- 大学・専門学校を卒業し、跡地内で働く県内の若者
- 老後の安心を求め、県内から越してきた夫婦
- 定年退職を期に県外から越してきた移住者
- 沖縄の環境を求め、本土からリターンしてきた移住者
- 県外から一時的に転動してきた会社員
- 研究施設で働く外国人家族
- 趣味を楽しむため、セカンドハウスを建てた富裕層

住む人はどんな価値観をもっているの？

自分の居場所	健康志向
「癒し」を求める	老後の安心
身近な楽しみの充実	多様な働き方
沖縄への愛着	積極的環境重視志向
家族の幸せ	情報価値の向上
沖縄文化の誇り	高い防災意識

健康長寿を取り戻すべく、健康に気を遣う人が増加

高齢者が通済するなかでも、医療や福祉など老後も安心して暮らせる環境が求められる

時間や場所、契約形態にしばられない柔軟な働き方が好む人が増加

環境への取り組みは当たり前の時代。中でも徹底的に環境を監視した暮らしに取り組みする人々がいる

ネット等による多様な情報ニーズが生まれ、情報そのものの価値が向上している

個人、法人ともに災害に備えることは重要だと認識している

くわしくは、「普天間未来予想図」ホームページをごらんください。 <http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mirai/>

⑩ パネル 7

新しい沖縄のライフスタイル

地縁を重んじる宮城さん

先祖から引き継ぐ跡地の新しい街に家を建てた。この街は、昔からの知恵を活かした街割りになっている。そして、最新の工口技術を駆使した新しい家は快適だ。亜熱帯の気候に配慮した造りとなっているらしい。地域でエネルギーを管理していて、我が家で発電した電気も買収してくれるから、電気代もお得だし、地域の役に立っていると思うとちょっと誇りである。

暮らしを支える都市機能

- 伝統的な街区構成を活かした住宅地
- エコ技術を駆使した住宅
- 地域によるエネルギーマネジメントシステム

沖縄文化に関心のある国吉さん夫婦

長年勤めた仕事を定年退職し、医療や福祉環境が近くに整っていることで転居してきた。これまで誇りにしてきた沖縄文化を後世に伝えていきたいと、市民センターで月に2度、妻と一緒に琉球舞踊を教えている。家の近くにある並松街道を散策した後、公園で一休みをして得ることを日課にしている。最近公園で仲良くなった方は、古くからこの街にゆかりがあるとのこと。今度、街の歴史を覚えてもらう約束をした。

暮らしを支える都市機能

- 高齢者が安心できる医療・福祉環境
- コミュニティを支える交流施設
- 地域の歴史を感じる散策道

沖縄の環境を求める安室さん

温暖な気候や緑の多い環境の中での暮らしを求め、故郷の沖縄にリターンした。仕事は、ネット環境さえあればできるので、場所は選ばない。最近、緑の中のカフェにある、海が見える席で仕事するのがお気に入り！プライベートも充実しており、水曜日は、仲間たちとアリーナでスポーツ観戦。休日は西海岸の海へ行ってサーフィンやダイビングなどのマリンスポーツをすることが恒例となっている。

暮らしを支える都市機能

- 多様な働き方を変える情報通信基盤
- スポーツ観戦等が可能なアリーナ
- 西海岸地域への高いアクセス性

県内から転居した比嘉さん一家

那覇市内に夫婦ふたりで暮らしていたが、子どもの誕生を機に、緑が豊かで教育環境も整ったこの街に転居を決めた。職場は少し遠くになってしまったが、鉄道を使うと那覇市内の職場までそんなに時間がかからない。駅前には保育園もあるので、共働きでも問題ない。休日には家族で公園に行くことが楽しみとなっている。この街の公園は緑が多いから、意外と涼しい。最近では、朝のジョギングも日課となっており、家族も健康で過ごしている。

暮らしを支える都市機能

- 良好で高水準の教育環境
- 子育て世代が訪れる緑が豊かな公園
- 周辺市町村への高いアクセス性

くわしくは、「普天間未来予想図」ホームページをごらんください。 <http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mirai/>

⑪パネル8



(5) - 2 小パネル (実寸サイズ: A4 版)

①宜野湾馬場 (ウマイー)



②宜野湾メヌカー



③並松街道と普天満宮



④水辺広場



⑤研究施設



⑥住宅地区



⑦馬場公園



⑧イベント広場



⑨大規模公園



(5) - 3 マット

①現代の航空写真マット (実寸サイズ : 1800 mm×1400 mm)



②戦前の航空写真マット (実寸サイズ : A0 版)



(5) - 4 会場内におけるブースPR用ノベルティ

①のぼり：2本



②風船（ブース内装飾、配布用）：1,000 個



4. ホームページの更新

本節では、今年度実施したホームページの更新内容について整理し、今後の展開について述べる。

(1) コンテンツの更新

PV、イベントの報告など新たなコンテンツを順次格納し、サイトのアップデートを行い、地権者、県民・市民に情報発信の充実を図った。

更新項目及びスケジュールは、以下のとおりである。

【更新項目】

- 第1回 H29年度PV「普天間未来予想図 緑の中のまちづくり編」の追加
 第2回 イベント開催報告
 (宜野湾市立図書館におけるイベント、沖縄県トータルリングショウへの出展)
 第3回 緑の中のまちづくり (海外事例編の追加)

【更新スケジュール】

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1回	提案 ★	調整		納品 ★ アップ(県) ★			
第2回			提案 ★	調整		納品 アップ(県) ★ ★	
第3回						提案 調整 納品アップ(県) ★ ★ ★	

(1) - 1 「緑の中のまちづくり」のページの新設

緑のもたらす効果をグラフや図によりわかりやすく紹介した。

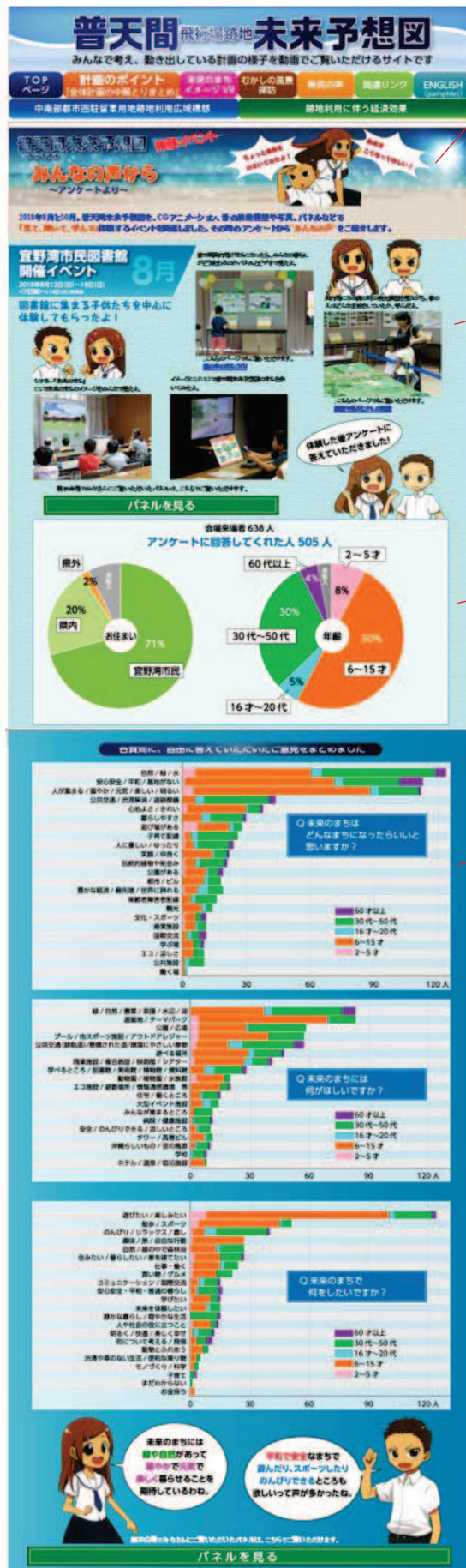
昨年の海外の事例（シンガポール）の動画もこのページ内に格納した。



(1) - 2 イベントの開催報告

8月に宜野湾市民図書館で開催したイベントと10月にブース出展した沖縄県トータルリビングショウの開催結果を会場風景、展示内容、来場者属性、アンケート集計結果を抜粋して来場された方や初めて見る方にも概略がつかめるようにまとめた。2回のイベントの開催時期が1か月半弱と近かったため、ページの作成と更新は同時に行った。

① イベントその1



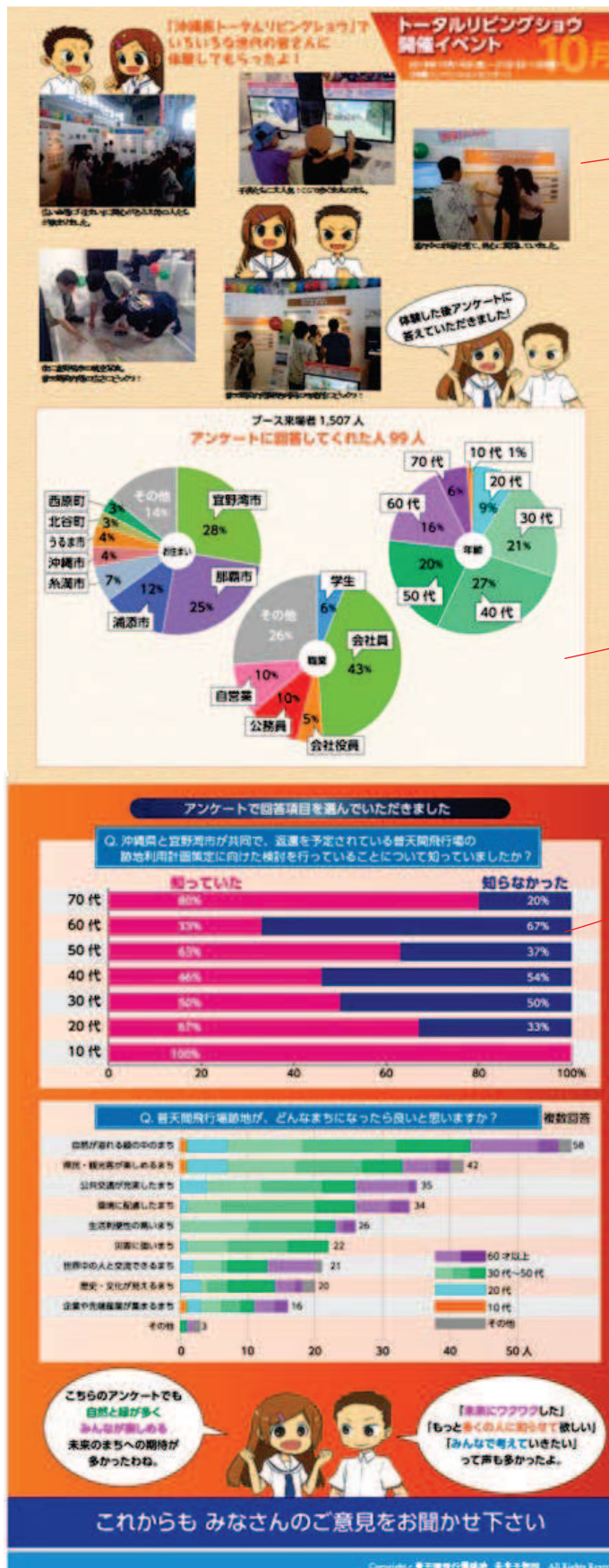
イントロのコピー
今年2回開催したこと、体験型のイベントであることの紹介
アンケートによる来場者の生の声の紹介があることを伝える

イベント展示内容を写真とコピーで分かりやすく掲載
既存のページがある場合にはリンク先を明記して誘導を図る

来場者の属性を居住地と年代で紹介

会場内で集まったアンケート（フリーアンサー）で集まった声を集計したものを紹介

②イベントその2



来場者の属性を居住地と年代、職
種で紹介

会場内で集まったアンケート（フ
リーアンサー）で集まった声を集
計したものを紹介

(2) 今後の展開

今年度までに毎年コンテンツの更新を行いながら、中身の充実を図ってきた。現状のサイトで見られるコンテンツは以下のとおりである。

- ・ 未来のまちVR（動画）
「中央エリア」「北側エリア」「南側エリア」
- ・ 動画で見る普天間未来予想図（中間取りまとめ）
- ・ 緑の中のまちづくり（海外事例動画もあり）
- ・ 模型で見る昔の風景（字宜野湾・字神山まちまーい体験報告含む）
- ・ ゆめのあるぎのわんみらい（児童生徒絵画コンクール受賞作ギャラリー）
- ・ 県民の声（地権者、市民の活動紹介、体験イベント紹介、絵画コンクール紹介、跡地利用計画提案コンペ受賞作紹介）
- ・ 中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想
- ・ 跡地利用に伴う経済効果
- ・ 関連リンク
- ・ 中間取りまとめ（英語版）



情報発信・意見聴取を目的として、今までに制作・実施してきたコンテンツが結集して格納されており、言ってみればアーカイブとしてのサイトとなっている。地権者や地元の若手の方々の活動も紹介されているので、普天間飛行場跡地利用の概要を知るために役立つ内容が揃っている。

例えば、地元の小中学生の学習参考資料、一般の方や地権者に使いやすいようPDFデータでの出力も対応可能にすることや、普天間飛行場について初めて触れる方にも一通り把握できるよう、ガイド的な機能をもたせてユーザビリティを高めていくことが考えられる。

また、スマートフォンやタブレットなどPC以外での環境でも見られるようレスポンシブレイアウト対応も考えられる。

■ レスポンシブ（例）



5. 新たな取組のアイデア

本節では、合意形成や情報発信に向けたこれまでの取組を整理し、今後の展開を検討した。

(1) これまでの取組と今後の展開

「中間取りまとめ」の策定(H25.3)以降、地権者や市民の合意形成・意見聴取、県民フォーラムやPRキャラバン、PVやHP・パンフレット・VR・模型等の作成等を行い、地権者や市民・県民を対象として合意形成や情報発信についての取組を行ってきたが、これまでの取組を整理し、課題を抽出することで、今後の展開へとつなげていく。

(1) - 1 これまでの取組

(1) - 1 - 1 これまでの取組の整理

「中間取りまとめ」の策定(H25.3)以降の取組や、各年度のターゲットや目的等を年度ごとに整理した。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
検討 ステージ	行程計画(案)作成	計画内容の具体化に向けた取組	
ターゲット ・目的等	市民県民へ中間取りまとめの内容を周知	(計画づくりスタート) (戦略検討)	計画づくりについて 地権者・市民の意見聴取、気運醸成
合意形成 意見聴取	地権者の合意形成・意見聴取(地主会、若手の会、懇話会等) * 宜野湾市実施		
		市民の合意形成・意見聴取 (NBミーティング、座談会、まち歩き等)	
			ワークショップ
情報発信	ホームページ(HP)の公開(適宜更新)		
	プロモーションビデオ(PV)放映		
	PRキャラバン		
	県民フォーラム		
プロモーション ツールの制作	HP立上げ		HPリニューアル
			英語パンフ作成
			パネル作成
	地形模型		地層模型
	PV制作	将来イメージを討議するためのVRを活用したPV制作	
	・「全体計画の 中間取りまとめ」PV - 普天間未来予想図	・中央エリア ⇒世界に誇れる環境づくり *地権者、市民等向け	・北側エリア ⇒歴史文化とコミュニティ *地権者、市民等向け

図Ⅲ-5 これまでの取組 (1 / 2)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
検討 ステージ	計画内容の具体化に向けた取組		
ターゲット ・目的等	計画づくりについて 地権者・市民の意見聴 取、気運醸成	計画づくりについて 地権者・市民の意見聴 取、気運醸成	将来を担う子どもたちや市 民県民に体験の機会を通 じて計画づくりの周知、意 見聴取、気運醸成
合意形成 意見聴取	地権者の合意形成・意見聴取（地主会、若手の会、懇話会等） * 宜野湾市実施 市民の合意形成・意見聴取（NBミーティング、座談会、まち歩き等） * 宜野湾市実施	絵画コンクール	
情報発信	ホームページ(HP)の公開(適宜更新) プロモーションビデオ(PV)放映		体験イベント ・図書館イベント ・大型展示会への出展
プロモーション ツールの 制作	HPコンテンツの作成 原風景模型パンフ作成 原風景模型		シアター映像 VRによるまちまーい パネル作成 航空写真マット作成 パンフ作成 将来イメージを討議するためのVRを活用したPV制作 ・南側エリア ⇒シマの基層と公園都市 *地権者、市民等向け ・緑の中のまちづくり ⇒緑の価値と街への期待 *地権者、市民等向け ・普天間飛行場の現状と 歴史 ・跡地利用による効果 ・緑の中のまちづくり ・暮らし方イメージ *県民、市民等向け(とくに 小中学生対象)

図Ⅲ－6 これまでの取組（2／2）

（1）－1－2 これまでの取組の課題

- ・地権者や市民・県民を主な対象として合意形成・情報発信を行ってきた。
⇒今後も地権者や市民・県民を対象とした合意形成・情報発信を継続し、更なる周知を図る必要がある。
- ⇒加えて、県外(国内)や海外等、ターゲットを広げる必要がある。
- ・主としてHP・パンフレット・PV等のコンテンツを提供することで、合意形成・情報発信を行ってきた。
⇒HP・パンフレット・PV等のコンテンツを提供することに留まらず、跡地の将来について考える場や機会を更に創出することで、将来の跡地を担う人材の発掘・育成を図る必要がある。

(1) - 2 今後の展開

これまでの取組の課題を踏まえると、今後は、これまで主たるターゲットとしてきた地権者や市民・県民に対しては、引き続き合意形成・情報発信を行い、更なる周知を図る。

また、これまでの主たるターゲット以外も取り込むことで、積極的に情報発信を行い、普天間飛行場跡地利用計画の周知と気運醸成を図る。

加えて、今後は国内の大きなイベントが控えていることから、それらを契機として、合意形成・情報発信の機会を創出し、国内外に広く周知することも考えられる。

(1) - 2 - 1 ターゲットの発掘・育成及び拡張の基本的な考え

ターゲットの発掘・育成及び拡張に関しては、以下の二つを基本的な考えとすることで、合意形成・情報発信の今後の展開を図る。

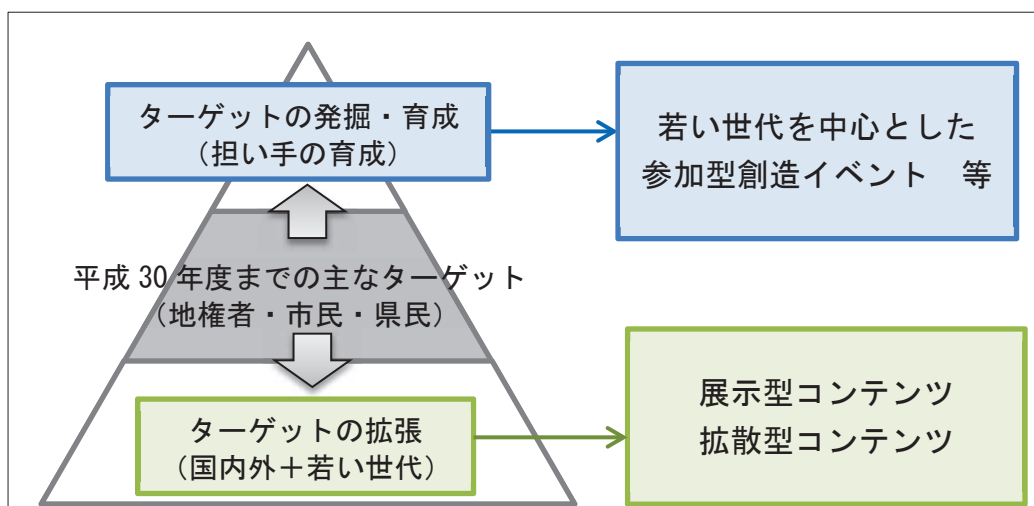
①まちづくりの担い手の発掘・育成

- ・将来の普天間飛行場跡地のまちづくりを担い、まちづくりに関わっていく人材をターゲットとすることで、長期にわたりまちづくりに関わりを持つ人材の発掘・育成を図る。
- ・若い世代をターゲットに設定し、普天間飛行場跡地利用について、主体的に考える場として、将来のまちづくりの提案を行う機会を創出する。

②ターゲットの拡張

- ・地権者や跡地利用への関心が高い市民・県民が主なターゲットとなっていた情報発信については、これまで以上に広く県民・市民が情報に触れる機会を創出する。
- ・これまでは、県内を主たる対象として行ってきた合意形成・情報発信を、より広域的に展開することで、国内外に対して広くアピールする。
- ・集客効果が大きい場所で展示等を行うこと、そして、場所を問わずに拡散が可能なアプリやパンフレット等を用いることで、今後ターゲットの拡張を図る。

③今後の展開イメージ



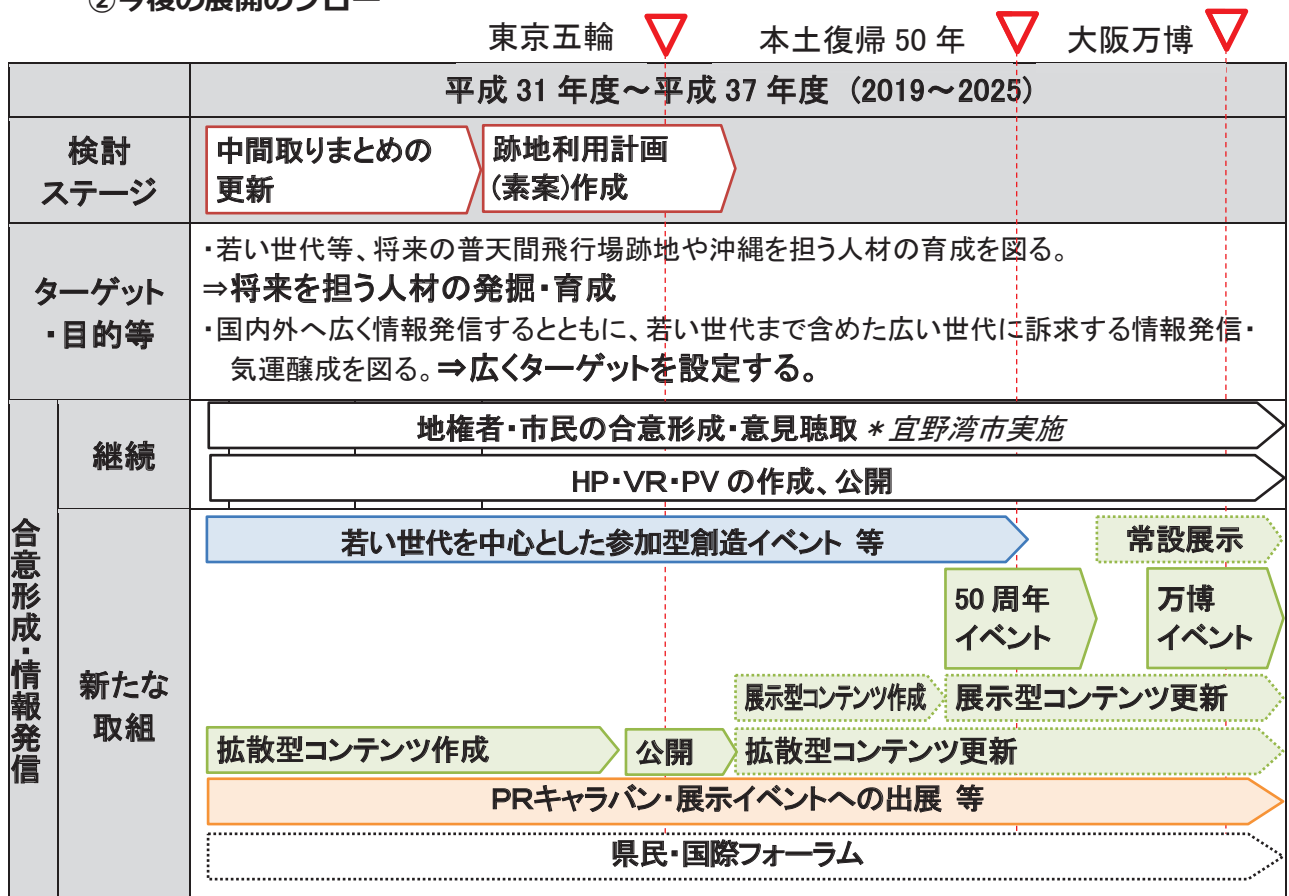
(1) - 2 - 2 今後の展開のフロー

普天間飛行場跡地利用計画の検討ステージにあわせ、今後国内で予定されている大きなイベントを契機として、将来の跡地のまちづくりを担う人材の発掘・育成と合意形成・情報発信のターゲットを広げる取組を行う。

①契機

- ・東京オリンピック・パラリンピック(平成 32 年度 2020)
- ・本土復帰 50 年(平成 34 年度 2022)
- ・大阪万国博覧会(平成 37 年度 2025)

②今後の展開のフロー



図Ⅲ－7 今後の展開

(2) ターゲットの発掘・育成方策のアイデア

これまで、地権者や市民・県民を主な対象として合意形成・情報発信を行ってきたが、その対象者は若年層の割合が低い現状にある。その要因として、地権者や関係団体等の構成員に若年層が少ない現状や、若年層の跡地利用を含めたまちづくりへの関心が高齢層に比べて低いことが想定できる。

今後も地権者や市民・県民を対象とした合意形成・情報発信を継続するとともに、より若年層等の幅広い層への情報発信を行う必要がある。また、跡地利用に関しては、長期的な視点からまちづくりを実現していく必要があるため、将来の跡地を担う人材の発掘・育成を行うことが重要である。

幅広い層への情報発信については、今年度実施したイベント（その2）と同様、県内で開催される「大規模イベントへの出展」や、県内の様々な施設を巡回する「キャラバン」等が想定される。若い世代の人材育成については、若い世代を中心とした「参加型創造イベント」の実施等が想定される。

【ターゲットの発掘・育成方策のアイデア】

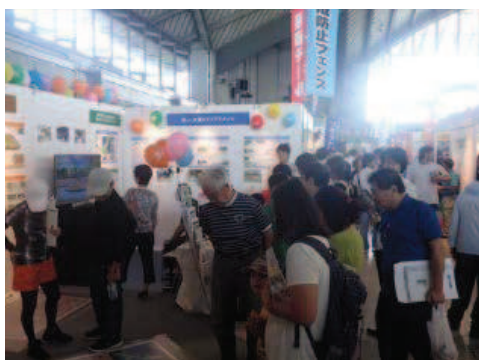
幅広い層への情報発信

県内で開催される大規模展示イベントへの出展

学校・商業施設・官公庁等、多くの人が訪れる施設でのキャラバン

若い世代の人材育成

若い世代を中心とした参加型創造イベントの開催



大規模展示への出展
(平成 30 年度沖縄県トータルリビングショウ)



キャラバン
(平成 25 年度実施)

(2) - 1 幅広い層への情報発信

(2) - 1 - 1 県内で開催される大規模イベントへの出展

今年度実施したイベント（その2）では、県内最大級の住宅関連展示会「沖縄県トータルリビングショウ」で跡地利用に関する情報発信を行った。今後も県内の大規模イベントへの出展を行うことで、広く県民・市民が情報に触れる機会を創出することが可能であると考えられる。

①沖縄県内での主な大規模イベント

県内で開催されるイベントの内、情報発信の機会として効果が期待できるイベントを以下に示し、その内容から「展示会」「物産展」「その他」に整理した。

	イベント名／開催時期	概要
展示会	夏休みこども自由研究 開催時期：8月	子供達に、沖縄の「自然・歴史・文化」を心と体で感じてもらい、自らを取り巻く環境に対し「気づき・考え・行動」を促すための夏休み自由研究企画 (平成30年の来場者数：2万4699人)
	沖縄県トータルリビングショウ 開催時期：10月	県民の快適な住まいづくりと住宅関連業界の振興発展を目的に、住情報・住宅関連製品を一堂に展示する。 (平成30年の来場者数：3万383人)
	沖縄旅フェスタ 開催時期：11月	「沖縄から旅に出よう!」をテーマに旅の楽しさを提案するイベント。県外、海外の観光情報やグルメ等情報を発信する。 (平成29年の来場者数：約3万5000人)
物産展	花と食のフェスティバル 開催時期：1月	「地産地消」をテーマとし、消費者と生産者の交流を通じて、新鮮で良質な沖縄県産品を広く県内外に紹介する。 (平成30年の来場者数：約21万人)
	産業まつり 開催時期：10月	生産者の生産意欲の高揚と県産品に対する消費者意識の啓発、県内外市場の拡大を目的とし、特色ある本県産業を幅広く県民へPRする。 (平成30年の来場者数：約23万人)
	離島フェア 開催時期：11月	離島の特産品の展示販売や伝統芸能講演等が行われ、島の魅力や文化をPRする。 (平成27年の来場者数：約15万人)
その他	各種 就職セミナー	就職活動者を対象に、セミナーや県内外の企業が集まる合同企業説明会等を実施

②各イベントで想定されるターゲット及び展示内容のアイデア

	イベント名	ターゲット	主な展示内容（案）
展示会	夏休みこども自由研究	小・中学生	・普天間飛行場の歴史 ・将来イメージ（VR）
	沖縄県トータルリビング ショウ	住まいに関心のある 若年層～中年層	・新たなライフスタイル ・スマートシティ
	沖縄旅フェスタ	旅行に関心のある 県民	・万国津梁 ・世界に誇れるまちづくり
物産展	花と食のフェスティバル	県民全体	・跡地利用計画全体 ・これまでに作成したコン テンツを展示
	産業まつり		
	離島フェア		
その他	各種セミナー	高校・大学生	・新たなライフスタイル ・スマートシティ

③各イベントへの出展で想定される効果・課題

	効果	課題
展示会	・特定のテーマに関心の高い人が来場するため、ターゲット設定が容易。 ・県全体に広く宣伝活動を行っており、多くの県民に情報を発信することが可能 ・HPやパンフレット配布と異なり、対面での情報発信・意見聴取が可能	・ターゲットに合わせた展示内容を検討する必要がある
物産展	・展示会の来場者数と比較しても、多くの来場者が見込めるため、県民を中心に県内外に広く情報発信をすることが可能 ・HPやパンフレット配布と異なり、対面での情報発信・意見聴取が可能	・開催趣旨の相違により、出展できない可能性がある ・屋外での出展ブースが多く、来場者数が天候に左右されやすい

(2) - 1 - 2 県内各地でのキャラバン（巡回展示）

県内の市町村役場や大規模商業店舗等で、これまでの普天間飛行場跡地利用計画の検討内容等を取りまとめパネルを展示し、県民に広く情報発信を行う。

キャラバンの実施により、子ども連れの家族から教育機関に通う若い世代や病院に通う高齢者まで、幅広い県民に情報発信を行うことができる。さらに、大規模施設に訪れる観光客等、県外への発信の可能性がある。

一方で、これらの人々は展示とは異なる目的での来訪が主であるため、展示コーナーで足を止めてもらえるよう、積極的な声かけや目を引く展示物・アイテムについて検討する必要がある。また、アンケートに回答した人に対してノベルティを配布する等、効果的な意見聴取の方法についても検討を行う必要がある。

①キャラバンの効果・課題

想定される効果	・それぞれの施設を主に利用する人々をターゲットとした情報発信が可能（ターゲットの設定が容易）。 ・説明員を配置することで、県民と直接対話することが可能。 ・過年度で作成したプロモーションツールを繰り返し活用することが可能。
課題	・それぞれの施設の来訪者は、パネル展示とは異なる目的で訪れているため、展示コーナーで足を止めてもらうための工夫が必要。

②各施設で想定されるターゲット

開催場所	想定されるターゲット
大規模商業施設	・日用品・買回品の購入を目的とした近隣市町村を含む家族連れ ・海外・県外からの観光客
市町村役場	・事務手続きに訪れる当該市町村の住民・企業
大学・専門学校等	・当該学校に所属する学生（若い世代）
病院	・治療、健診等に訪れる中年層～高年層



平成 25 年度に実施したキャラバンのようす

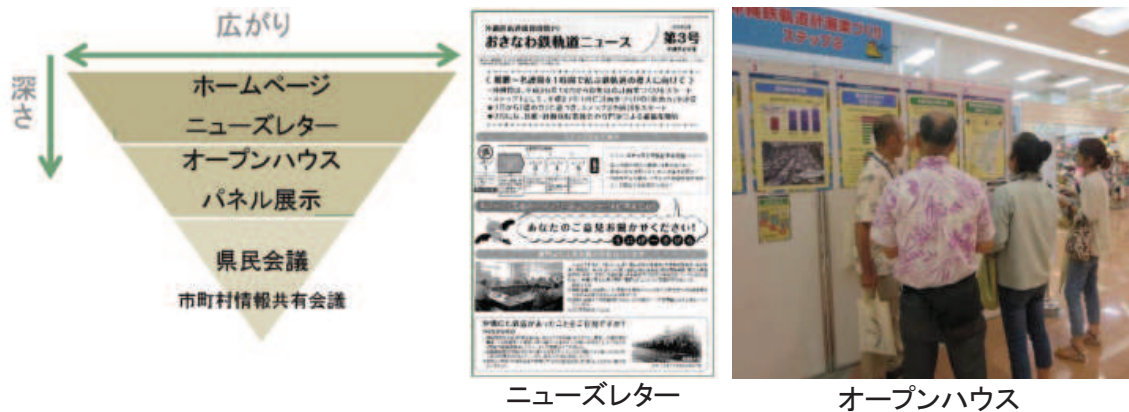
③参考事例

沖縄鉄軌道計画案づくり

県民への情報提供や意見聴取のため、検討内容の概要をまとめた「おきなわ鉄軌道ニュース」の配布やパネル展、ホームページでの掲載と併せて、県民会議や市町村会議、関係機関等意見交換会を設置している。

■情報発信・意見聴取の具体的内容（一部抜粋）

手法	内容
ニュースレター	・検討内容等や検討の結果を県民にわかりやくニュースレターとしてまとめ、意見募集期間及び各ステップ終了時に、全戸配布を行う。
オープンハウス (パネル展示)	・検討内容等をパネルに県民にわかりやすくとりまとめ、各ステップの意見募集期間中に県内各地域（市町村役場や商業施設等）においてパネル展示を実施する。（1箇所あたり5日程度を想定） ・また、各ステップの意見募集期間中に、沖縄本島北中南部、宮古、石垣において、説明員（職員）を配置したオープンハウスを実施し、県民と直接対話しながら説明を行う。
県民議会・市町村との情報共有のための会議	・県民や市民の代表者、交通事業者等で構成する会議・関係市町村行政の担当課長等で構成する会議を設置し、ステップ毎に開催し情報共有を図る。



■パネル展示・オープンハウス実施スケジュール（平成 30 年）

公共施設・商業施設	2/6～2/13	読谷村役場 6日・北中城村役場 6日・宜野湾市役所 7日 浦添市役所 7日・南城市役所大里庁舎 8日	公共施設・商業施設	2/24～2/28	イオン県志川 24日・サンエー宜野湾コンベンションシティ 24日 サンエー県志川メインシティ 26日
	2/7～2/14	沖縄県庁 13日・那覇市役所 14日・おきなわ観光ターミナルビルとまりん		2/25～3/1	イオン北谷 25日
	2/8～2/12	中城村吉の浦会館 8日・イオン南風原 12日 イオン那覇 11日・サンエー那覇メインプレイス 10日		2/26～3/2	うるま市役所 2日・沖縄市役所 28日・北谷町役場 1日
	2/8～2/15	八重瀬町役場総合庁舎 9日・糸満市役所 13日・豊見城市役所 9日		2/28～3/4	サンエー西原シティ 3日・サンエー経塚シティ 3日
	2/14～2/20	与那原町役場 14日		2/28～3/6	道の駅ゆいゆい国頭 28日・道の駅おおぎみ 5日・東村役場 28日・運天港
	2/15～2/21	宜野座村役場 15日・豊原村役場 15日・金武町役場 20日・喜手舞町役場 20日	大学	2/6～2/9	琉球大学・沖縄女子短期大学
	2/17～2/21	道の駅許田・イオン名護 17日		2/7～2/9	名桜大学・沖縄キリスト教学院大学
	2/19～2/23	今帰仁村コミュニティセンター 21日 本部町役場 21日・名護市役所 23日 西原町役場 19日		2/7～2/14	沖縄国際大学
	2/20～2/26	石垣市役所 22日		2/14～2/16	沖縄県立芸術大学
	2/21～2/25	サンエー豊見城ウイングシティ 25日		2/16～2/22	沖縄県立看護大学
	2/23～2/27	久米島空港 26日・イオンタウン南城大里 27日		2/19～2/22	沖縄工業高等専門学校
	2/23～3/1	宮古島市役所 23日	病院	2/7～2/14	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
				2/26～3/2	沖縄県立中部病院
				2/28～3/6	沖縄県立北部病院

出典：おきなわ鉄軌道ニュース第7号（平成 30 年 2 月、沖縄県）

(2) - 2 若い世代の人材育成

(2) - 2 - 1 若い世代を中心とした参加型創造イベントの開催

県内の若年層が、未来の普天間飛行場跡地について考え、提案する機会を設けることで、気運醸成を図る。また、提案する過程において、様々な人材と交流する機会を創出することで、若い世代間のネットワークを構築し、沖縄を担う人材を育成に寄与することが期待できる。

①期待される効果

- ・跡地利用について若者の視点を反映できる。
- ・若年層の交流の場、人材育成の機会となる。
- ・若年層への跡地利用に関する情報発信・気運醸成をもたらす。

②プログラム期間の想定

創造イベントの開催期間により、想定されるメリット・デメリットを以下に示す。また、ターゲットとなる若年層は、①小中学生、②高校・大学・専門学生、③20代の社会人の3パターンを想定する。小中学生に対しては、情報発信に重きを置き、短期的なプログラムを推奨する。高校生以上の若年層に対しては、人材育成に重きを置き、質の高いアウトプットが求められる長期的なプログラムを推奨する。

短期的なプログラム (数時間～半日)	・インプット、提案内容を深化する時間が十分に設けることができないため、限定的なアウトプットになることが想定される。 ・提案にかかる時間が短いため、気軽に参加できるイベントとすることが可能。
長期的なプログラム (1年～数年)	・これまでの検討内容等を十分にインプットすることができ、提案内容を深化する期間を設けることが可能であるため、質の高いアウトプットを見込める。 ・長期間にわたることから、提案者の負担が大きくなるため、参加者の募集が困難となる可能性がある。

若年層による跡地利用提案の短期的なプログラム(案)

- ①参加者の公募と提案チームの編成
- ②跡地利用に関する提案の検討
- ③図や絵等を用いたビジュアル的な提案の発表

若年層による跡地利用提案の長期的なプログラム(案)

- ①参加者の公募と提案チームの編成
- ②跡地利用に関する提案の検討
- ③提案を実現するためのプロセスの検討
- ④提案内容・プロセスに関するプレゼンテーションの作成
- ⑤イベントにおけるプレゼンテーションの発表

※上記プログラムは複数年度をまたいで実施することで、内容の深化や、人材育成の効果が期待できる。

各段階で各種分野の
専門家のアドバイスを
や支援を受ける。

③長期的なプログラムにおける想定参加者及びアドバイザーとなる専門家等

様々な分野の参加者や専門家、企業が相互に交流することで、新たな視点や自己表現手法を習得することができ、若い世代間のネットワークの構築や将来の普天間飛行場跡地で活躍する人材の育成に寄与することが期待できる。

■想定される専門家・企業

専門分野	アドバイス内容等のイメージ
都市計画・都市開発	配置計画、土地利用、景観形成、機能導入 等
自然環境・歴史文化	自然環境の保全・創出、歴史文化資源の保全・活用 等
都市交通	鉄軌道、都市幹線道路、公共交通結節点
観光	観光拠点形成、観光レクリエーション、観光リゾート 等
コミュニティ	交流・連携・協働によるまちづくり 国際交流 等
建築	スマートシティ、住環境、省エネ住宅 等
情報通信	情報通信基盤、ICT（情報通信技術）、IoT 等

④参考事例

アジケイコンペ

アジケイコンペとは、沖縄県アジア経済戦略構想事業の取り組みの一つで、未来を牽引する「若者×企業」がタイアップし、企業が抱えるアジア戦略課題を若者目線で解決するプロジェクトである。

課題を抱える県内企業から議題が提出され、その議題に対して若者の目線から解決に向けたアイデアを提案するというものである。参加促進の仕掛けとして、プレゼンテーションでグランプリを獲得したグループには、海外研修旅行の表彰が行われる（平成30年度は香港・マカオ3泊4日）。

■応募資格

沖縄県内在住の高校生・専門学校生・大学生・新社会人までの方であればどなたでも参加が可能。また、グループ（3名以内）での応募も可能。

■スケジュール（平成30年度実績）

10月下旬：議題発表・企画募集開始

12月下旬：募集締切

1月中旬：学生・社会人のプレゼンテーショングランプリ・準グランプリの決定及び研修旅行の表彰



出典：アジケイ特設サイトより

(3) ターゲットの拡張方策のアイデア

これまで合意形成・情報発信の主たるターゲットとしてきた地権者や市民・県民に加え、地理的にも世代的にもより広い範囲にまでターゲットを拡張するための方策のアイデアを以下に検討した。

(3) - 1 展示型コンテンツ

海外への訴求力や集客力が高いイベント等にあわせて、展示空間を設置し、その場限りの体験を提供することで、面白くかつ人に伝えたいコンテンツを展開する。

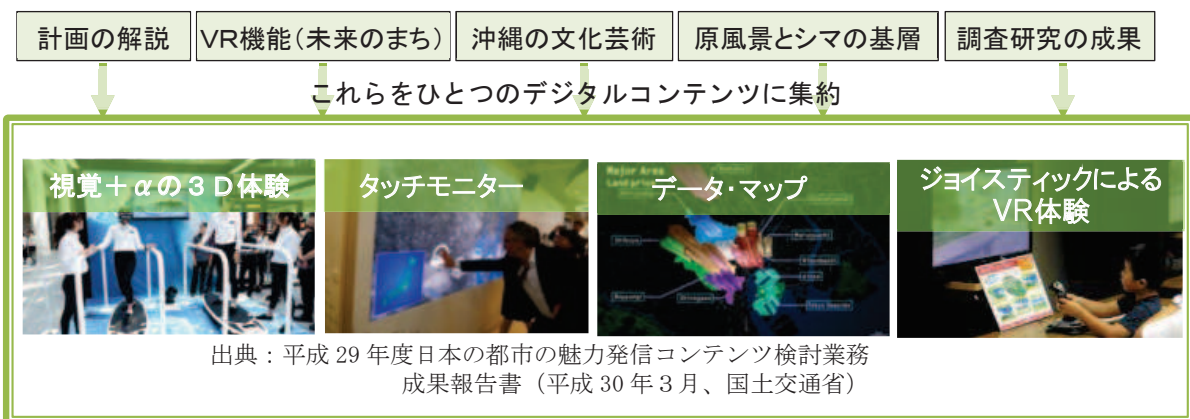
展示型コンテンツの体験を簡易的・部分的に体験することが可能となる拡散型コンテンツの存在を周知するための機会とする。

(3) - 1 - 1 展示場所の例

- ・那覇空港
- ・羽田空港
- ・成田空港
- ・万博会場 等

(3) - 1 - 2 展示型コンテンツの展開例

- ・3D体験空間や圧倒的なスケールでの計画模型
- ・タッチモニターやVR体験等のインタラクティブコンテンツ
- ・沖縄の歴史・文化や普天間飛行場跡地利用計画の解説等、大容量情報をデータマップ等で可視化するコンテンツ



(3) - 2 拡散型コンテンツ

その場限りの体験を提供する展示型コンテンツとは対照的に、場所や時間を問わずに簡易的・部分的に展示型コンテンツを利用でき、かつインターネットを介して瞬時に大多数に共有が可能となる拡散型コンテンツを展開する。

展示型コンテンツのデータの軽量化を図ることで、スマホアプリ等により個人で体験可能なコンテンツを作成する。

(3) - 2 - 1 拡散型コンテンツの展開例

- ・スマホアプリやQRコード、パンフレット等、持ち運び可能で場所を問わないツールを相互に連動させることによる、AR（拡張現実）コンテンツ等

計画の解説

VR機能(未来のまち)

沖縄の文化芸術

原風景とシマの基層

調査研究の成果

一つ一つのデータのアプリ等を作成し、データを軽量化⇒場所を問わず簡易的に利用



AR(シートマーカー)

図面・航空写真等にスマホをかざすと、将来像や解説等がスマホ上に浮かび上がる。

出典：平成 29 年度日本の都市の魅力発信コンテンツ検討業務成果報告書（平成 30 年 3 月、国土交通省）



VR

キャラクターを操作することで、実在の道を歩く疑似体験、沿道店舗の情報の取得等が可能。

出典：「VR Town in Takamatsu」アプリ

(3) - 3 展示型コンテンツ事例

(3) - 3 - 1 「ジョイスティック等によるVR体験」

①活用イメージ



※通常のVRデータを改変し、ジョイスティック専用のメニューを作成し、エリア毎にバルーンを配置し、本地区に関するクイズに答えながら、将来のまちあるきを体験。

②概要と効果

情報発信イベント等において、多彩なメニューを用意し、ジョイスティック等の操作でゲーム性の高い内容とすることによる「遊び体験」を提供することで、子供の集客性向上やより深い将来イメージの理解促進を可能とする。

③対象（人）

- ・イベント等の来訪者

④対象（場所）

- ・イベント空間
- ・PCとモニタが設置可能な場所

⑤活用端末

- ・専用PC、モニタ 30 インチ程度
- ・ジョイスティック等

(3) - 3 - 2 「大型映像装置」

①活用イメージ



出典：平成 29 年度日本の都市の魅力発信コンテンツ検討業務成果報告書（平成 30 年 3 月、国土交通省）

※各拠点（空港等）や情報発信センター

②概要と効果

都市の魅力を効果的に発信するためのツール。都市の時間軸の変遷、地域軸、構成レイヤー軸などを、大型映像による様々なコンテンツ・手法を組み合わせ、観る・触れる・感じる・学ぶなどの五感に訴えるインタラクティブな仕掛けにより、そこでしか出来ない体験を可能とする。

③对象 (人)

- ・イベント等の来訪者

④対象（場所）

- ・拠点（空港等）や情報発信センターなど
- ・PCとモニタが設置可能な場所

⑤活用端末

- ・ 専用 P C
- ・ 広角投影プロジェクタ
- ・ ジェスチャー・音声認識によって操作できるデバイス（例：Kinect センサー）

(3) - 3 - 3 「360 度映像（段ボール製 VR スコープ（通称：ハコスコ））」

①活用イメージ



出典：ハコスコ ホームページより

- ・定点より 360 度映像を作成し、YouTube 等で公開。
- ・ユーザーは、ハコスコ内にスマートフォンを入れ込み、専用の YouTube 映像を見ながら 360 度見回す。

②概要と効果

手軽に VR 体験を可能とする「スマートフォン」＋「ハコスコ」の組み合わせ。ハコスコに入れたスマートフォンをのぞき込み、定点から 360 度見回すことで、空間の中にいるかのような 3D 疑似体験を可能とする。

種類は段ボール製、プラスチック製、一眼モデル、二眼モデルの 4 種類があり、用途によって選択可能。

③対象（人）

- ・イベント等の来訪者

④対象（場所）

- ・拠点（空港等）や情報発信センターなど

※ただし、インターネット環境とハコスコがあればどこでも可

⑤活用端末

- ・タブレット/スマートフォン

※データ軽量化/エリア選定等が必要となる。

(3) - 4 拡散型コンテンツ事例

(3) - 4 - 1 「AR（立体模型）」

①活用イメージ



出典：平成 29 年度日本の都市の
魅力発信コンテンツ
検討業務成果報告書
(平成 30 年 3 月、国土交通省)

出典：「Shibuya AR」アプリ

※専用アプリを作成し、アプリストアにて公開。

- ・ユーザーは、“App Store”、“Google Play”よりアプリをダウンロードし、予め設定したリーフレット（シートマーカ）等にカメラをかざすと、その上に立体模型を表示。

②概要と効果

手軽にまちを知り、俯瞰して情報を得ることが可能。利用者はまちを俯瞰して立体的にとらえることが可能となり、タッチ等のインタラクティブな操作により詳細説明や映像にリンクし、より深い将来イメージ理解促進につながる。

③対象（人）

- ・国内外の不特定多数

④対象（場所）

- ・インターネット環境があればどこでも可
- ・専用シートマーカ（無くても利用可）

⑤活用端末

- ・タブレット/スマートフォン
- ※データ軽量化/エリア選定等が必要となる。

(3) - 4 - 2 「AR (まちあるき)」

①活用イメージ



出典：「VR Town in Takamatsu」アプリ

※専用アプリを作成し、アプリストアにて公開。

- ・ユーザーは、“App Store”、“Google Play”よりアプリをダウンロードし、アプリを起動。

②概要と効果

手軽にまちを知り、楽しむことが可能。

商店街の個々の店舗が発信するその日その時の情報を、端末内VR空間を歩きながら収集するなど、まち歩きの魅力を伝え、回遊性を高める。キャラクターが画面に映し出された現実空間を行き来するため、実際のまちについての興味・関心を引くことへつながる。

③対象 (人)

- ・国内外の不特定多数

④対象 (場所)

- ・インターネット環境があればどこでも可

⑤活用端末

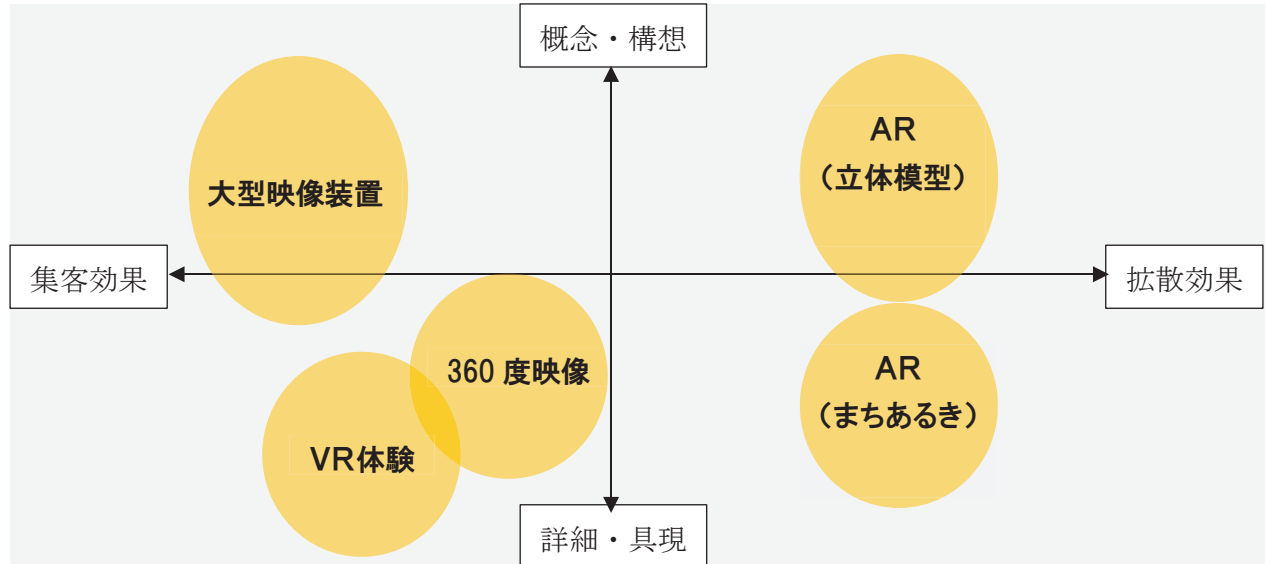
- ・タブレット/スマートフォン

※データ軽量化/エリア選定等が必要となる。

(3) -5 事例総括

展示・拡散型コンテンツの各事例は、一般的には下記の様に位置づけられる。

(3) -5-1 各コンテンツの位置づけ



図Ⅲ-8 コンテンツの位置づけ

(3) -5-2 各コンテンツのメリット・デメリット

	メリット	デメリット
VR体験 (ジョイスティック)	・イベント毎に設置が可能 ・現地への集客性が高い ・ゲーム性を付加可能	・設置スペースが必要 ・運営管理が必要 ・機材が必要 ・プレイ人数に限られる
大型映像装置	・現地への集客性が高い ・大型映像による迫力のある仕掛け ・同時に複数人数での閲覧可能	・設置スペースが必要 ・運営管理が必要 ・機材が必要 ・専用の映像制作が必要
360度映像 (ハコスコ)	・YouTube等により世界へ配信可能 ・手軽にVR体験 ・ハコスコ導入費用が安価	・貸出等の運営管理が必要 ・ハコスコ本体が必要
AR (立体模型)	・ストア公開により世界へ配信可能 ・手軽に立体模型を俯瞰 ・情報のリンクが可能	・データ軽量化/エリア選定等が必要 ・別途シートマーカが必要 ・ストア登録が必要 ・OSのバージョンアップ対応
AR (まちあるき)	・ストア公開により世界へ配信可能 ・手軽に現地をまちあるき ・情報のリンクが可能	・データ軽量化/エリア選定等が必要 ・ストア登録が必要 ・OSのバージョンアップ対応